使徒のBETA

マスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
使徒のＢＥＴＡ

【Ｎコード】
Ｎ７４７７Ｓ

【作者名】
マスター

【あらすじ】
使徒の使い魔の主人公、レイア・ド・ラシェール・フォン・ヴェーグルが
とある世界に舞い降りるお話です。

本来ならば、地球外生命体を単機で全滅させた後に、ハーレムを築く予定
だったのだが…あろうことか、人類の手によって死ぬ寸前まで追い込まれしまう。

当然、そんな理不尽な運命など受け入れられる程
出来た人間ではない為…人で在る事を捨ててまで人類に復讐を誓う
レイアであった。

※同作者の作品、使徒の使い魔の主人公が登場する為
登場人物の一切の説明はありません。
※作者の思いつきで始めた物の為、更新は月一？位の予定

プロローグ（前書き）

メインの使徒の使い魔の息抜きとして、
作者の好きだった作品のＳＳを書いてみました。

プロローグ

「はぁはぁ、流石にもう限界かな…」

まさか、ゼルエルとラミエルが全力で展開したA・Tフィールドを突き破られるとはね。おかげで　私は満身創痍だ。両足は吹き飛ばされて、左腕と左目も消滅した。生きているのが不思議な状態だ。流石は、使途の力と言ったところだな。

だけど、それもそろそろ限界っぽいな。せめて、長年付き添ったラミエルだけでも無事でいてくれたら良かったのだが…

「ラ、ラミエル…」

私の声に呼応して、ラミエルのコアが弱弱しく発光した。

そうか…お前も限界なのか。ごめんな、こんな所まで付きあわせてしまって。段々と視界が狭くなってきた。指輪の力で延命を図っているが、どうやらそろそろ魔力切れだ。

「は、はは…無様だな」

世界を救ってあげようかなと思い、主人公ｓｉｄｅに敵が行かないように単機で敵を引きつけたあげく　この様とはね。

何もないだだっ広い空間に私の声が響く

「心中するなら　せめてかわいい子としたかったよ」

私達と同じよう横たわり死にかけている青白い生物に話しかけた。
まぁ、もっとも返事が返ってくることもないか。

「君も感謝してくれよ。私のA・Tフィールドが無ければお前は即死だったのだから…まぁ、死ぬのが少し先延ばしになっただけだったがね」

「……」

青白い生物が微妙に動いているのを確認した。

ふっ、お互い無駄に丈夫だと死にづらくて困るよね。苦痛が長引くだけだしね。

「空が青いな…」

地下数百メートルからはるか上空の空を見上げた。

今頃、人類は　同じ空の下で勝利の雄叫びを　上げているのだろう。

そう…ここに取り残された私を除いて！！

・・・
・・
・

ふ、ふざけるな！

なぜ、私がこんな目に合わねばならない

ふざけるな！！

なぜ、一番頑張った私がこんな結末を迎えなければならない

ふざけるな！！！

なぜ、私は人類の手によって殺されなければならない

ふざけるな！！！！

・・・・・

・・・・

・・・

・

「死んでたまるか…はぁはぁ、貴様等にも私の味わった物を味あわせてやる！！」

そうだ、生き残ってやる！

例え、この身が人間でなくなろうとも最早厭わない。このままでは、生き残れる可能性は、皆無だ…しかし、可能性は低いが生き残れかもしれない策はある。

「すまない…ラミエル。私の為に…」

私をいつも支えてくれた心の友よ。君がいたから私は、いつもさびしくは無かった。本当にすまない。

君の犠牲は、無駄にはしない！！

「死んでくれ」

ガブリ

私は、ラミエルをコアごと食らった。

これは、賭けだ。体の欠損部分をラミエルで補う。そして、失いかけている使途の力をラミエルのコアを食らい補充する。

本能が言っている・・・　これは、足りないと。

やはり、あれも食さねばならぬか…

ふふふふふ、上等だ！

「お互い、生き残る為だ共存しようぜ…ＢＥＴＡさんよ」

ガブリ

成功した暁には、期待しているぜ　ＢＥＴＡ。お前さんの学習能力で早いところ　Ｇ弾を無効化してくれよ。あれだけが、Ａ．Ｔフィールドの脅威だからな。

プロローグ（後書き）

色々とご都合主義や独自設定で突き通す予定の為、見る人は覚悟してください。
原作無視しまくりますので

モノづくりは、性分・・・マブラブに来たらやっぱり、新種ＢＥＴＡ作成だよね

一話一話を短い間隔でサクサク進めて、終わらす予定です@@

モノづくりは、性分・・・マブラブに来たらやっぱり、新種ＢＥＴＡ作成だよね

ＢＥＴＡを食らって一週間後。

結論から言うと、私は生き残ったのだ！！あの状態からよく生き残ったものだと今となっては褒めてやりたい位だ。だけど、当然その代償は大きかった。

顔の右半分と心臓がある左胸部を除いて、人外へと変貌してしまった。ラミエルのクリスタルに『あ号標的』が混ざってできた特殊な体へと成り下がってしまった。だが、不幸中の幸いとでもいうべきだろうか…容姿についてはカヲル君を再現できている。

お陰様で、私は今や使徒でありながら、地球上の全ＢＥＴＡを束ねる存在になったのだ。超進化もいい所だ。

「まさか、自分が倒そうとしていた存在に自分がなってしまうとはね。人生分からないね」

あれから人類側がどうなったのかは知らないが、勝利に酔いしれながら世界各地にあるハイヴ攻略作戦が進行している。私が完全回復する間に随分と好き勝手やってくれたようだ。

「くっ」

世界各地からＢＥＴＡの悲鳴が私の脳内に響く。

上位存在というのも存外大変なものだ。すさまじい情報量が私の中を駆け巡っている。情報処理の方は、私の中で生きているＢＥＴＡ

とラミエルに任せて、私は自分の作業に入るかな。

「待っていろよ　人類」

ちなみに、皆さんは考えたことがあるだろうか…もしも、ＢＥＴＡの見た目が醜くなかったらどうだったのかと。そう、この作戦の要は　ソコにあるのだ！

原作通りの『あ号標的』には、人類の美的センスを理解できなかっただろう。しかし、今や『あ号標的』は私である！と言う事で、さっそく行動開始と行こうじゃないか。

あれから、半月後。

今、元『あ号標的』が居たところに、たくさんのＢＥＴＡが集まっている。ちなみに、私お権限で集めた。

だって…一人でいると寂しいんだもん。

それにしても新種のＢＥＴＡ作りは、なかなか楽しかった。やはり、モノづくりは私の性分のようだな。本来ならば、一種類だけ作る予定が何種類もの新種を作ってしまうとは…私の才能が怖い位だ。

ちなみに、開発した新種は農作業用ＢＥＴＡ、建築用ＢＥＴＡだ。こいつらには、人間が住むための環境づくりをしてもらおう。

なぜ、そんな事をするかって？

そりゃ…私の側に人類を引き込んで　”人類ｖｓ人類”　をやるからに決まっているだろう。

そして、最後の紹介になったが…これが私の今回の最大の成果ともいえる

「愛玩用ＢＥＴＡだぁぁぁぁぁぁ！！！！」

人型で身長１５５？位の女性だ。ちなみに、身長や容姿だが人類の保護欲をかき立たせるように作っている。もちろん、あらゆる面で人類と同じである。ただ、唯一違う事はＢＥＴＡである為、私の絶対服従という一点だけだ。

私の叫びに呼応して光線級や重光線級などが修理したばかりの天井に向けて盛大にビームを放った。当然、天井がその威力に耐えきれるはずもなく天井の一角が落下してきた。

おぃおぃ、喜んでくれるのはいいけど　手加減というものをお覚えようぜ。

ドドドーーーン

目の前で仲間が潰れるのは、目に余るので
左手からラミエルの荷電粒子砲で落下してくる落盤を消滅させた。

まったく、手のかかる子達だ。

さて、後は人類側に宣伝を開始するかな。

モノづくりは、性分・・・マブラブに来たらやっぱり、新種ＢＥＴＡ作成だよね

さて・・・どういう宣伝で人類ｓｉｄｅを取り込もうかな

とりあえず、迎えに来いよ人類・・・（前書き）

本当に適当な展開ですみません。

マブラブファンの方がいらっしたら、

ごめんなさい。

とりあえず、迎えに来いよ人類・・・

私は、人類に私という存在を認識させる為の行動に出た。

具体的に何をするかは簡単だ、私が元にＢＥＴＡを集めればいいのだ。ただそれだけで、相手は私という存在に釘付けになるだろう。後は、どの戦場を選ぶかだな。

世界各地にあるハイヴから私に情報が寄せられている中から最適な場所を選択する。なるべく、目立つ場所がよい。無理だろうけど・・・人が多い場所がベストだ！目撃者が多ければ多いほどこれは有効的なのだからね。

そして、私が選んだ場所はＥＵ・・・リヨンハイヴだ！あそこには、私の子供たちが巣を作っており、激戦区の一つでもある。まずは、ゼルエルを身にまとい現地に急行した。

ちなみに、新種のＢＥＴＡはまだオリジナルハイヴでしか生産しておらず各地には出回らせていない。なんせ、人型ＢＥＴＡは色々と作るのが大変なんだよ。人語を理解させる為に色々と手の込んだ調整が必要なんだ。

数時間後。

ふぅ・・・やはり、オリジナルハイヴからは思ったより距離があるね。

さて、まずは地上に出ているすべての子達を私の周囲に集めるとしよう。後は、相手からアクションをしてくれるはずだ。ＢＥＴＡを

従える人型の存在はなんなのか！？といった感じでね。

『私のかわいい？子達よ、集まっておいで』

地下からも溢れんばかりのＢＥＴＡが這い上がってきた。予想外に、集まりすぎたのでかわいそうだけど、半数は地下で待機させた。だって、集まりすぎるとアメリカが　Ｇ弾とか撃ってきそうだもんね。

今ここにＢＥＴＡの大軍が終結した。まさに、精悍の一言に尽きる！半数でこの規模とは…ＢＥＴＡの物量に恐れ入ったわ。資源が無尽蔵だと、こうなるのね。

「さぁ！人類よ！私はここに居る、早く迎えに来い」

１０分後。

まぁ、仕方ない。
相手もＢＥＴＡの謎の行動に気付いているだろうが下手には動けないからね。

２０分後。

きっと、軍隊のお偉いさん達が無駄な事を試行錯誤しているに決まっている。
だから、まだ待とう。

・・・
・

・

６０分後。

さすがに、遅すぎるんじゃね！？もしかして、Ｇ弾フラグか！

だが、上空は重光線級に警戒させている為、Ｇ弾らしきものが視えれば私は即座に戦線離脱予定だ。Ｇ弾といえど、近距離で凄乃皇の自爆クラスを食らわない限り生き残れる自信はある。

９０分後・・・。

な、なぜだ…どうして、誰もここに来ない。明らかに私の周りが異常でしょう！！ＢＥＴＡが私を囲むように集まっているのだからさ。誰がどう見ても私が特殊な存在である事など理解できるはず。

「は！　そうか、ＥＵでは日本と違い謙虚さをアピールするのではなく・・・もっと積極的にアピールしないと通じないという事か！？」

そうとわかれば、地上にナスカの絵のごとく言葉を書いた。書いたと言っても戦車級ＢＥＴＡを地面に整列させただけだけどね。

『話がある。とりあえず、各国のお偉いと会話できるようにしておけ。後、攻撃しないから迎えの戦術機を一機ここによこせ』

これで、あとは相手が来るのを待つばかりだ。相手が来やすいようにモーゼの十戒のようにＢＥＴＡを左右に避けさせた。

やっぱり、自己紹介って大事だよね？（前書き）

気が付けば連続投稿していた作者がいる。
まぁ、ノリで進められるうちは書くべしですよね。

やっぱり、自己紹介って大事だよね？

地面に文字を書いてから二時間後。

ようやく、迎えの戦術機が見てきた。

私のお迎えに来てくれたのは、ＥＦ－２０００　タイフーンか…。と言う事は、乗っている衛士は恐らくエース級だろうな。まぁ、今この状況において衛士の実力など関係ないけどね。

戦術機が３ｋｍ位まで近づいた辺りで、子供らに指示を出した。そう、万が一だ…あの戦術機がＧ弾を積んでいたら流石に不味いので、まずはボディチェックだ。しかし、当然相手の衛士は、罠にはねられた！？などと思うだろうと思い、私はプラカードを持たせたＢＥＴＡを現地に派遣しておいたのさ。

とりあえず、衛士を戦術機から降ろして戦術機を隅々までチェックさせた。なーに、戦術機の知識は００ユニットから既に入手済みの為、点検など朝飯前だ。

結果…Ｇ弾は無かったがＳ－１１…通称『戦術核』が搭載されていた。当然、戦術核を無効化して全武装を解除させたよ。

それにしても、丸腰？の私に少し対応が酷過ぎるんじゃない？あわよくば、殺してやろうという事か！？

あ…丸腰と言っても全裸じゃないぞ！　廃墟にあったものから比較的まともそうな服を頂戴して来ているのだからね！

『私は、フランス陸軍第１３戦術竜騎兵「自己紹介何ていいよ。さぁ、指令の元へ私を連れてってくれ」・っ！！』

相手の方は、人型である以上　もしかしたら言葉が通じるかもしれないと思って自己紹介をしたのだろう。だが、あくまでも思っていただけのようだ。マイク越しに相手の驚きようがよくわかる。まぁ、ＢＥＴＡのリーディング能力を使えば、相手のすべてを読み取れるがそれではツマラナイ。

相手は、当然私をコックピットになど入れてくれるはずもなく。仕方ないので、私が肩に乗っかり走れと命令をした。

フランス方面、前線基地にて。

すごく、厳戒態勢です。どの位かって？そりゃ…私を取り囲むように一個大隊以上の戦術機が展開しており、歩兵があらゆる場所から狙撃できるように私に照準を合わせている…その数、もう数えるのが面倒なくらいだ。

私は、戦術機の肩から飛び降りた。

「それで、お偉いさん方は何処かね？案内役さん」

私が戦術機を見上げると、戦術機が施設の入り口脳を指差した。そこには、司令官らしき男とその秘書らしき女性がいる。なるほど、自分のお役目はここまでと言う事か。

熱い視線の中を、基地に向かって歩いていった。

「私が、基地指令のミハエル・バーナーだ」

いくら敵とはいえ、挨拶をされたら返すのが礼儀だよね。私ってなんて謙虚なんだろう。

「挨拶をされたら挨拶をし返すのが風習だったかな？　私は、レイア・ド・ラシェール・フォン・ヴェーグルだ」

私が挨拶をし返すと基地司令と含め横にした女性までもが、まるで一生で一番驚いた！と言う顔をしている。

「良い名だろう。どうせ、この会話も映像も世界各国に流れているのだろう。そして、私の事を検索しているのだろう。…それで、準備は終わっているのだろうね？」

まぁ、幾ら検索を掛けられようがＨｉｔするはずもない。なんせ、私のはこの世界の人間じゃないのだからね。

「あ…あぁ、こっちだ」

私は司令官に先導されて、基地内部へと移動した。吉と出来るか凶とでるか…まぁ、わくわくするね。

基地内の某大部屋にて。

ディスプレイがこうも大量に並べられていると壮観だね。まじで、世界各国のお偉いさん方とつながっているくさいぜ。まぁ、ディスプレイ以外にもいろいろと準備をしていたようだけどね…時間がかかったのはそれか！？と文句を言ってやりたい。

この大部屋には、数えるのも馬鹿馬鹿しい位の装置が隠されている。そこまでして、私の正体を見たいのだろか…。

「覗かれるのは好きじゃないのだがね。指令も貴重なＥＳＰ能力者をここで失いたくは無いだろう」

指令が険しい顔をして何やら仲間に指示をした。

しばらくすると私を監視していた目が無くなった。さて、これで気になる視線も無くなったし、ご対面と行こうじゃないか。

「お見苦しい所をお見せしましたね、世界の皆さん。改めて自己紹介させてもらおう。レイア・ド・ラシェール・フォン・ヴェーグルだ。…と言っても君たちにとっては、こういった方がいいかな？私が今代の『あ号標的』だ」

やっぱり、自己紹介って大事だよね？（後書き）

では、勧誘を開始しよう。

追伸、

適当な展開でごめんね。

子供たちが待っているので帰ります（前書き）

この位の文字数だと比較的更新が楽なのが分かった。

と言う事で、連日投降がんばります。

子供たちが待っているので帰ります

私が名乗ると一瞬、人間たちは沈黙した。

私が新種のＢＥＴＡである事位は、想像していただろう。だが、そのＢＥＴＡがつい先日人類の総力を挙げて倒した『あ号標的』だとは思っていなかったのだろう。

しかし、沈黙も一瞬で終わりを迎えた。ある意味流石というべきだろう…私が対話している連中は世界が誇る敏腕政治家達と言っても過言ではないだろう。

ザワザワ

対話が可能なＢＥＴＡである事に加えて、地球上全てのハイヴを支配している最上位ＢＥＴＡである。人類にとって私の価値は、計り知れない存在だろう。

何やらディスプレイ越しに、人間達は私とコミュニケーションを取ろうと必死で会話を試みようとしている。簡単に纏めれば、『対話を望む』とか『お互い共存しよう』とか綺麗事ばかりぬかしてきやがる。

当然、無視だ。

「まぁ、落ち着きたまえ。君たちが喋っているのは自由だが…私は自分の話を無視されるのは大嫌いなんだよ」

シーーーーン

うむ、実に素早い行動だ。

「そうだ、それでいい。悪いが一方的に話させてもらうよ。今日は、君たちへの挨拶と吉報を持ってきてあげたのさ。人類の時間にして一週間後、全人類に向けて重大な発表を行う。それに当たり　君達には私の声が世界に届くように準備をしてもらいおう。当然、ただとは言わない。これから一週間は　全てのＢＥＴＡに活動を停止させよう。もちろん、君達が攻めてこなければだけどね」

まぁ、ここに居るメンツならば実現させられるだろう。なんせ、世界を牛耳っている連中と言っても過言ではないのだからね。

さて、世界はどう出るかな？全面戦争か？それとも、微かな希望に掛けて一週間待つかな？

用件は済んだし、撤収させてもらおう。お楽しみは一週間後だ。

『ま、待ってくれ！　少しでいい、君と…いや、貴方ともっと話をさせてはもらえないか？』

私の正面という一番よいポジションにあったディスプレイの主が話しかけてきた。どこに国かは分からないが…可能性が高いのは米国だろうな。

「そんなに話したいか…では、会見を行う場所は米国、〇ワイトハウス前としようか大統領」

私は、そのまま部屋を退場し基地の外に出た。

基地の外にて。

ガシャガシャ

基地を出たら、入って来た時以上に人間が集まってきている。しかも、全員重武装で武器に関しては実弾入りと見受けられる。

おぃおぃ、何処から湧いてきたんだ　こいつら！？　と言いたくなるくらいの数だ。

「さてさて、基地司令。子供たちが待っているから帰りたいのだが…道が塞がれていてね」

「いかがでしょう？　一週間…この基地でお過ごしになられませんか？　最高の待遇をお約束いたします」

ふむ、最高の待遇か…それは、おいしいお誘いだけど。残念だけど、私はこれから愛玩用ＢＥＴＡの最終調整をしなきゃ、いけないから忙しいんだよ。

「断る！　誰に命令されたから知らんが…押し通らせてもらおう」

ふっ、パフォーマンスの意味も込めて私は、右手を前に突出し…ラミエルの荷電粒子砲を放った。その瞬間、前を塞いでいた戦術機は勿論あらゆるものが蒸発し、道が開けた。

ドコォォーーーーン

ふふふふふはははははははははは

「なっ、今のは！？」

なにって？かの有名な凄乃皇が搭載していたアレですよ。
まぁ、威力の方は比較にならない程のものだけどね。

「それでは、また一週間後に会いましょう。サ・ヨ・ウ・ナ・ラ」

私は、そのまま上空に飛び出して、オリジナルハイヴへと向かった。

子供たちが待っているので帰ります（後書き）

読んでくれてありがとう。
こんな作品ですが、見てくれている人がいると嬉しい限りです。
さてさて、人類に向けて声明を発表しようじゃないか。

超ホワイト企業、行政法人ＢＥＴＡ設立？（前書き）

よんでくれてありがとう。

超ホワイト企業、行政法人ＢＥＴＡ設立？

世界のお偉いさんにメッセージを伝えてから一週間がたった。

あれから、一週間忙しかった。世界が混乱している隙をついて、各ハイヴの構造を改変し、戦力分も再構成させた。これで、人間側のカードを一枚潰せただろう。

ホワイトハウスのはるか上空から見下ろす光景は絶景だ。

「見ろ！人がごみのようだ」

某大佐の有セリフを言ってみたが…

「ご主人様、意味がわかりません」

「ご主人様、そろそろ向かわれた方がよろしいのでは？」

くずん

私の横にいる。二人のＢＥＴＡが返事をした。

今回は、この子たちのお披露目も兼ねているので調整が完了したばかりだが連れてきましたよ。男性に需要が高いだろうと踏んで作った『美少女型ＢＥＴＡ』、そしてもう一人が今の世界状況を鑑みて作った『美少年型ＢＥＴＡ』だ。

「アダム、イヴ。お前達には期待しているぞ」

名前は…まぁＢＥＴＡ初の人型と言う事から有名な神話から採用しましたよ。

ホワイトハウス前にて。

そういえば、米国ってまだＢＥＴＡが踏み入れたことが無い土地だったけ？という事は　私がＢＥＴＡ　初めての相手になるわけだ。

フミフミ

「ど、どうかされましたかレイア殿？」

私たちの案内役らしき人が私の謎の行動に疑問を持ったようだ。

「いや、米国に来るのは初めてでね。すこし、地面を踏みしめていたんだよ」

「そうですか。どうぞこちらへ」

うむ、苦しゅうない。

それにしても、カメラとＴＶの数多すぎない？　一体、どんな宣伝をしてんだ人間さんよ。

ホワイトハウス内の演説会場にて。

何処を見ても人人人…そして、あちこちに戦術機と強化歩兵がいるね。まぁ、当たり前か…

「何度も自己紹介は、面倒なのだが…初めまして人間の方々。私は、レイア・ド・ラシェール・フォン・ヴェーグルという。今代の『あ号標的』と言った方が分かりやすいかね？」

ざわざわ

分かってはいたが、毎度毎度この反応はうざい。

「＜＜黙れお前等＞＞」

魔法の力を使い、全員を黙らせた。ラミエルと『あ号標的』を取り込んだ事でこの会場全員を黙らせる事など朝飯前だ。

「安心しろ。私が話し終われば、質問を受け付けてやる。今日は君達にいい報告を持って来た。まずは、これを見ろ」

私はアダムとイブに持って来た横断幕を広げさせた。その内容は…住込み三食付、週休完全二日制、勤務時間一日８ｈ、家族同伴可、募集人数一万人…ｅｔｃなど勤労条件を書いた物だ。

どうだ参ったか！

ちなみに、超ホワイト企業と言っても過言でない位の募集内容だ。まぁ、命は張ってもらおうけどね。

「それでは、質問がある者は挙手したまえ。話せるようにしてやろう。

あぁ、名前など覚える気もないから名乗るなよ。質問だけ手短に言え」

すると、会場の全員が一斉に手を挙げた。お前等手を上げ過ぎだろう。そこの中から適当に人を選び質問させた。

「私は、ニュヨークタイ・・」

パーーン

女性が社名名乗ろうとしたので速攻で頭を吹き飛ばしてやった。あたりに血しぶきが広がるが、誰もしゃべれない為　悲鳴一つ聞こえない。

「同じ事を何度も言わせるなよ。次！」

今度は最前列に居た男に質問をさせた。

「これは、俗にいう従業員募集という認識で正しいのでしょうか？」

「そうだ」

どこからどう見ても、そうとしか見えないはずだけど。

「待遇内容で色々と気になる点があるのですが、人数が一万人、給与がポイント制、そして戦術機の操作やその整備技術、または専門知識に優れた人材の場合は更に優遇とありますが　具体的にはどういったことでしょう」

「良い質問です。順番に応えましょう。

まず、募集人数が一万人ですが…これは、住居や食料の生産状況の関係上　受け入れられる上限数です。
ちなみに、欠員が出た場合は随時募集をします。

そして、給与のポイント制についてですが、貴方達でいうお金と思ってくれれば構いません。ただし、受け渡し等はできない物の為その人が死ねばポイントも消滅します。また、ポイントで買える商品については、あらゆるものを用意する予定です。例えば、天然物の食材、薬、家、酒、そして、先ほどから私の後ろで待機している
　この子等のその商品の一つだ」

「初めまして、愛玩用ＢＥＴＡ　アダムです」
「初めまして、愛玩用ＢＥＴＡ　イブです」

どうだ、かわいい子だろう。

「そ、その子達もＢＥＴＡなのですか！？」

まさに、驚愕の新事実だよね。

「あぁ、基本スペックは人間と変わらん。
もちろん、夜の営みも可能だ。
お前らが言う人権もＢＥＴＡならば問題なかろう？では、続けるぞ。
戦術機等の知識を持つものを優先するのは、敵と戦うために決まっているだろう。
あぁ、そうそう、先ほど商品で言い忘れたけど…
あの子達以外の目玉商品として、
我々の技術を用いて若返りや寿命の延命なども用意してあるぞ」

若い者たちには、愛玩用ＢＥＴＡは最高の商品だろう。しかし、年

老いた老人たちにとっては、使えない商品になるかもしれん。そこで考えたのが、若返りと延命だ。

「どうすれば、採用されるのでしょうか？」

採用か…そんなにＢＥＴＡ側で働きたいのか。

「採用方法は、実に簡単だ。最寄りのハイヴに行けばよい。既に、各ハイヴには精神感応タイプのＢＥＴＡを多数配備しており、君たちが心から私の元で働きたいと思うならば攻撃を受けることはない」

攻撃を受けると言ったあたりから集まったの人間が話が違うぞ！みたいな顔をしている。

「さ、最後に…その募集内容には業務内容が書かれていませんでしたが。何をするのでしょうか？」

「人殺しだよ」

一万人という狭い枠にどのくらいの人が集まるか楽しみだ。

超ホワイト企業、行政法人ＢＥＴＡ設立？（後書き）

ポイント制を取りいれてみました。
さて、ポイントごとの商品一覧とかつくろうかな@@

ポイント一覧（前書き）

得られるポイントやポイントの使い道等を色々一覧にしてみました。

ポイント一覧

■ポイント表

?戦闘時の基本報酬

#	項目	ポイント	注意事項
1	国家元首殺害	500,000	
2	凄乃皇級戦術機撃破	500,000	
3	母艦撃破	100,000	
4	潜水艦撃破	50,000	
5	第三世代戦術機撃破	5,000	
6	第二世代戦術機撃破	2,500	
7	第一世代戦術機撃破	1,250	
8	陸戦兵器撃破（戦車、装甲車等）	1,000	
9	輸送車撃破（補給車、揚陸艦等）	500	
10	戦闘員殺害（軍人）	10	
11	非戦闘員殺害	5	

?戦闘時の追加報酬

#	項目	ポイント	注意事項
1	G弾に関する技術を入手	200,000	
2	基地制圧時	10,000	参加者全員
3	第三世代戦術機入手より、減点	10,000	欠損具合に
4	第二世代戦術機入手より、減点	5,000	欠損具合に
5	第一世代戦術機入手より、減点	2,500	欠損具合に
6	BETAにとって有益な新技術の開発		

又は　情報を提供した場合　　３０，０００　　内容に応じて加点有

?商品一覧

#	項目	ポイント	注意事項
１	延命処置	５００，０００	２０年分
２	若返り	５００，０００	指定した年齢に若返りさせます。
３	愛玩用ＢＥＴＡ　カスタム仕様	２５０，０００	貴方だけのＢＥＴＡをご用意
４	愛玩用ＢＥＴＡ　アダム ｏｒ　愛玩用ＢＥＴＡ　イブ	１５０，０００	但し、寿命は延びません。
５	戦術機改造	１００，０００	見た目だけ変更可能。但し、性能劣化
６	完全治療	１００，０００	病気や身体の欠損等を治します
７	容姿改造	１００，０００	貴方が望む容姿へ変身させます。（ＴＳ可）
８	一軒家	１００，０００	
９	一週間のバカンス	１０，０００	
１０	天然物の食材（海の幸、山の幸）三日分	１００	
１１	嗜好品（酒、煙草、お菓子）二日分	１００	
１２	趣のある品物	１００	夜の営みに使う品々等
１３	その他（日用品、雑貨等）	１００	一品当たり、基本１０ポイント。

ただし、

素材にこだわる場合は必要ポイント増加

?その他

■基本給は、毎月５０ポイントです。（勿論、技能に応じて差異があります）

■住居は、大型の社宅に様な物を用意しております。

■食料は基本的に、配給制です。

ポイント一覧（後書き）

何か追加商品で希望等ありました、仰ってくださいね。

なにか表などを上手に作る手法は無いのかな…投稿する時と実際みた文章とで差異がありまくる。

そんなに、頑張らないでもいいんじゃない？（前書き）

こんな作品ですが、読んでくれてありがとうございます。

そんなに、頑張らないでもいいんじゃない？

私が世界に声明を出してから一か月がたった。

ここまでは　概ね予想通りに事が運んだよ。すでに、ＢＥＴＡ側に寝返った人類の数は７千人に達したのだ。やはり、自分の事が一番かわいいのであろう。

「昨日の敵は、今日の友ってか…」

昔の人は良い言葉を残したな。まさに、その通りの状況が起こっているのだからね。

おまけに、ＢＥＴＡ側に付いた人間の殆どが、戦術機や装甲車などを持参してきた。まぁ、ハイヴに向かう以上、歩いて来られるはずも無く　当然の帰結と言うべきだろう。

君達は　いつまで生き残れるかな？

君達の雇い主として、仕事ぶりを見に行こうじゃないか。

某前線基地にて。

既に基地は半壊状態であった。各所から火の手が上がっており、制圧まであと一歩と言うところまで来ている。ＢＥＴＡの援護も無く、３０機足らずの戦術機で前線基地を落とすとは、なかなかやるではないか。

ちなみに、ＢＥＴＡは基本的には争いに参加しない方向を取っている。なぜなら、我々まで協力したら、一方的なゲームになっちゃうからね。

「君達、良い腕をしているね。この短期間でどうやってここを落としたのだい？」

近くに居た戦術機に話かけた。乗っている機体が不知火の為、恐らくエース級に近い衛士なのだろう。

「はっ！　我々の中に、あの基地出身の者がおり、戦力やセンサーの範囲など内部情報があった為、スムーズに事が運びました」

ふむふむ、流石だね。

「そうか、よくやった。これで基地が落ちれば、君は２０万ポイントか…我々の中でも断トツじゃないか。君は、一体何を望むのかな？」

それにしても、わずか一か月で２０万ポイントは正直凄いな。どれだけの数の人間をこの短期間で殺したんだ。そうまでして、君が欲しい物が私はとても気になるよ。

「…娘を。故郷でＢＥＴＡに殺された娘を取り戻したい」

娘か…と言う事は、こいつの望みはアレを希望するという事か。それにしても、娘を殺した親玉に尽くさねばならない、この衛士の気持ちはさぞ複雑だろう。

「わかっていると思うが、死者蘇生は不可能だ。お前の記憶をカスタムタイプに転写する事で疑似的に再現は出来るが、それはＢＥＴＡであってお前の娘じゃない」

「わかっています。だけど、それでも・・・それでも」

愛玩用ＢＥＴＡをそういう風に運用するとは、少々予想外だな。まぁ、私は出来る上司だから、少しだけ手助けをしてあげよう。

「ここより、南南西に５０ｋｍ程言った場所に難民キャンプがある。数にして１万人居るだろう」

「…」

戦術機は、南南西に猛スピードで移動を開始していった。頑張ってきてくれ。

そんなに、頑張らないでもいいんじゃない？（後書き）

最後まで読んでくれてありがとう。

夢の広がるカスタムタイプとか書いていて自分でも欲しかったｏｒｚ

次回の内容は、未定です。さてさて、どういった話にしようかな@@

欲望に忠実なのは、いい事だと思うよ（前書き）

読んでくれてありがとうございます。

今日もＢＥＴＡで頑張っております。

欲望に忠実なのは、いい事だと思うよ

あれから更に一か月が経過した。

計画は上々だ。今、我がＢＥＴＡ側についた人間は定員の１万人に達したのだ。

それにしても人間どもは良く働くね。

人間側を裏切った以上、後戻りはできないという事もあり　やる気に拍車がかかっているのだろうけどね。

「報告を」

「は！　先日、ソ連にある前線基地を制圧。

これで我が軍が制圧した基地の数は八つ目になります。

ただ、流石に我が軍の被害も甚大でした。

戦術機を含め総戦力の２割を失いました」

流石は、ソ連…前世で恐ロシアと呼ばれた強国だけの事はあるね。

我が軍の２割を道連れにするとはね。

「それで？」

「人員に欠員が出た為、人類側に通知したところ

募集人数の三倍の人数が来た為、先着順で雇い入れました」

人間の替えなど幾らでも居る。どんどん殺し合いたまえ。

「続けろ」

「は！　定員割れ人間については、その場に居合わせた小隊で全て駆逐致しました。
ただ、基地制圧時に死亡した者の家族についていかがいたしましょう？」

どこにでも効率よくポイント稼ぎを奴は居るんだな。じゃんじゃん
　やってくれ。
後は、死亡者の家族についてか…そんなものは、決まっている。

「労働の意欲がある者は、職につけろ。職に就けない者、就かない者は全て殺せ」

ちなみに、我がＢＥＴＡでの職とは基本的に軍役に事だ。食料の生産から建築に至るまで基本ＢＥＴＡが行っている為　生産業に人を回す必要はない。もっとも、研究職や専門職など特化した技能を持つ者は　別待遇だがね。

「了解致しました」

そういうと、人間は退出していった。

さーて、後は功労者が希望している愛玩用ＢＥＴＡカスタムタイプを作るとしよう。一般仕様と異なり、全て私の手作りだ。なんせ、注文が細かいのが多いからね。

愛玩用ＢＥＴＡの仕様書に目を通した。全部で５件あるのだが…そのうち２体が他の仕様と比べて異質を放っている。

「やはりと言うべきだろうか…まさか、同郷の者がいようとはね」

この世界の人間が…キツネ耳を持った美少女タイプ…しかも、賢狼とアレとクリソツな者を考えられるはずもない。そして、もう一体は…脱げば脱ぐほど早くなる事で有名は某魔法少女とはね。しかも、声まで希望してるよ。

・・・・
・・
・

恐らく、原作知識はあるが特殊能力がない類の人物だろう。だが、戦術機適正は　ずば抜けて高いがね。我が軍でカスタムタイプのＢＥＴＡを持てる程の人物は　両手で足りるくらいだからね。

「良い機会だし、会ってみようかな」

我が軍のエースにね。

欲望に忠実なのは、いい事だと思うよ（後書き）

もし、この世界に生まれていたら自分はどっちに着くのだろう…。

次回は、転生者ｏｒ憑依者にご登場願おうかな。

どういった人物にするかは、これから考えます。

類は友を呼ぶとはよく言ったものだ（前書き）

最近、この作品を読んでくれている人が増えてきて作者としてもうれしいです。

口調等で色々と疑問に思わる方も多いでしょうがあまり気にせず読んでいただけると嬉しいです。

類は友を呼ぶとはよく言ったものだ

転生者らしき二名を呼び出した。実際会ってみて分かった…こいつら絶対転生者だと…。なぜなら、こいつらの容姿がその事実を物語っている。

「一応、自己紹介しておこう。レイア・ド・ラシェール・フォン・ヴェーグルだ」

「私は、元アメリカ軍所属グラハム・エーカーだ」

「俺は、元イスラエル軍所属刹那・F・セイエイだ」

言うまでもないと思うが、名前通りの容姿をしている。三者がお互いの顔を見合わせている。全員言いたいことはあるようだが…色々と考えているようだ。

「全員、初対面であっているかな？」

二人が頷いた。

「二人にとても言いたい事があるんだが…お前等、ガンダムはどうしたんだよ！！」

「やはり、同郷の者か…TVを見たときは、まさかと思ったがな。ならば、何故お前はエヴァに乗っていない！　三号機もしくは六号機にのっているべきだろう！」

言ってくれるじゃないかこのガンダム野郎め。私だって乗れること

なら乗りたいが…あんなの作れるわけがないだろう。

「エヴァに乗っていないカヲル君など…ただのゲイではないか」

た、確かに…やばい、言い返せない。

「うるさい、うるさい、うるさい！」

「「釘宮病だ」」

上司に対しての礼儀がなっておらんではないか。本来ならば、あの世に送るべきなのだが…同郷のよしみで許してあげよう。

ゴホン

「まぁ、冗談はさておき…二人は、どんな経緯でこの世界に？」

マブラブは、ゲームとしては非常に面白かった。しかし、転生する世界としては正直最低ランクに近いだろう。なんせ、敵がほぼ無限に居る上に、人類の寿命が残り１０年程度…白銀武が『あ号標的』を撃破しても人類の寿命が３０年程度に伸びるだけで、正直生きるのに辛い世界だ。

「俺は…００のＤＶＤをレンタルした帰りにトラックで…。その後にセオリー通り神様に会って、願い事を聞かれたから『ガンダムに乗りたい』と言ったら、この世界に生まれ落ちた」

「それで、肝心のガンダムは？」

・・・

・・
・

「生まれた時の家に…ＧＡＮＤＡＭと書かれたダンボールが…ぐずん」

ひ、酷い。酷過ぎる。

思わず私までもらい泣きをしてしまった。

「わかるぞ　少年！　私もトラックに轢かれて…神に『スサノオ』が欲しいと言ってこの世界に来たのだが…５歳の誕生日プレゼントが何故かスサノオのプラモデルだったのだｏｒｚ」

不憫だ…なんて不憫なのだ。

「二人とも不憫な思いをしていたのだな。　まぁ、その容姿と戦術機特性が高かっただけ良かったじゃないか」

「それで、貴殿はどうしてここに？」

貴殿…いい響きだ。是非、今後もそう呼んでくれグラハムさんよ。

「あぁ、私は…私の場合は、神様が直接別世界に行ってくれないかと言われてね。最も、この世界の生まれでは無く、『ゼロ魔』の世界出身だけどね」

「なんと！虚無の担い手か！？」

「不公平だ！　不公平すぎるぞ！！」

まぁ、そうだよね。君達を見ていたら私って本当に恵まれている気がしてきたよ。

「いいや、土のスクェアだ。後、容姿から分かるように当然、こんなことも出来る！」

私は、二人の前にA・Tフィールドを展開した。すべての手の内を見せない為に、ゼルエルやラミエルの事は内緒にしておくつもりだ。

「なるほど…予想通りだ。それで、一体どういう経由で『あ号標的』なんてやっているのだ？」

私は、この世界には『世界扉』の事故で来てしまった事や世界状況を見て善意で人類を助ける為にオリジナルハイヴに飛び込んだ事などを説明した。そして…最後に白銀武に荷電粒子砲＋G弾で殺されかけ、生き延びる為に『あ号標的』を食らった事を説明した。

・・・
・・
・

その後もしばらく、話し合い昔話に花を咲かせた。思いのほか、前世での年齢層が近かったらしく話が合って楽しかった。

数十分後。

「最後に、確認しておきたいのだが…なぜ、人類を裏切ってまでこちら側に？」

「人類側に居る限り、俺がガンダムに乗れる事はないだろう。
ならば、可能性がある方に着くのが当然だ。
そして、獣耳は最高だ！　俺は、その為ならばなんだって出来る！」

あぁ…件のキツネ耳ＢＥＴＡは刹那君が申請者だったね。

「私も左に同じく。
人類側に居ては、スサノオなど夢のまた夢。
そして…ＹＥＳロリータＮＯタッチを信条としている
この私にとって…ここは天国だ。
ＢＥＴＡならば人間でないし適応範囲外だからな」

肉体構造的に人類とほぼ同じだけど…その場も適応されるのか？

まぁ、頑張って働いてくればそれでいいよ。

「君達の心意気はよくわかった。これからも頑張ってくれ。
後…追加報酬というわけでは無いが、君達が希望するなら
戦術機の見た目をガンダムやスサノオに変えようか？」

便利な錬金を使い、形を変える程度はたやすいさ。

「お願いしょう」
「俺も」

了解した二人とも。

「あ…そうそう、君達が希望していた愛玩用ＢＥＴＡだが完成した
ので君たちの宿舎に届け……って、いないし！」

私が言い終わるより早く、二人は部屋を退場していた。

エロは人間の限界をこえるのか…

類は友を呼ぶとはよく言ったものだ（後書き）

感想や誤字脱字報告いつでもお待ちしております。

さてさて、そろそろ展開に詰まってきてしまった。

横浜あたりに乱入しようか…それとも、アジアを制圧するか…それとも、アメリカ合衆国で商売でも始めるか…

ＢＥＴＡって汎用性高いよね…主に武器としても（前書き）

読んでいて抱きありがとうございます。

ＧＷって暇なのはいいけど、休みすぎると

休み明けが不安で困ります。

仕事のやる気が下がりまくり

ＢＥＴＡって汎用性高いよね…主に武器としても

ふむ…自分で言うのも何なのだが…『錬金』ってチートだな。たぶん出来るとは思っていたが、まさかこうも思い通りにいくとはね…

現在、例の二人の為に戦術機の見た目を『錬金』でスサノオとガンダムエクシアへと変貌させた。スサノオについては、グラハムがプラモを持ってきてくれたから細部まで再現できたのだが、エクシアについては正直記憶があいまいな部分が多いので微妙にオリジナルになっている。

それにしても、形を変えたのはいいがさ。これって、うちの整備班が整備可能なのか…。後、不安なのが性能面だ。まぁ、今回の変形で多少性能が落ちたところで　あいつ等は死ぬようなタマじゃないだろう。

「会いたかった…、会いたかったぞ、ガンダム！」

「いや…アンタはスサノオでしょう。なに浮気してんの。無駄に名台詞使わないでもいいよ」

そんなにガンダムが好きなら、今からでも見た目をガンダムに変えてやるぞ。

「ガンダムだ・・・俺がガンダムだ！」

「あぁ、そうだね。君の！ガンダムだね」

言葉は正しく使おうぜ刹那君。君のガンダムだから。そんなにガン

ダムになりたいなら、機体と直接繋がり操縦する技術でも開発依頼をだしてみるかい？もっとも、それを実現するためには君は人間をやめる事になりそうだがね。

「気にいってもらえたようだな。分かっているともうが…中身は君達が元々乗っていた第三世代となんら変わりはない。むしろ、形を変えたことで色々と無茶をしているから　しっかりとテストしてくれよ」

「無論だ」

「あぁ」

後は、うちの整備班と一緒に改修していけばよいね。

「あ…そうそう、一つ言い忘れたことがあった。機体の改造に当たり君達が持っていたポイントから１０万ポイント引いておいたから」

「な、なんだと！それでは、猫耳タイプが買えないじゃないか！」

そんな血走った目でこっちを見ないでくれよ　刹那君。

「まて！　ポイントがかかるなんて聞いてない。今ポイントが減ってしまうと週末に『お姉ちゃんを買ってきてやる』と言う約束がまもれないではないか！？」

いや、そんなこと言われてもグラハムさんよ。それに、あんたさ…愛玩用ＢＥＴＡに姉をかってくるって…一体どんなプレイする気だよ。

「まぁまぁ、落ち着け。確かにポイントについて伝えてなかったのは私の責任だ。だから、君たちの為にこちらで追加装備を用意してあげた。それで、我慢してくれ。なーに、君達ならば絶対に気に入るはずだ」

私は、用意した新装備を二人に見せてあげた。二人ともそれを見た瞬間、目が輝いていた。そりゃそうだろう、この世界じゃ実現不可能に近い代物だからね。

「これは…光線級ＢＥＴＡか？　何故か、銃みたい目をしているが…」

「は！そういう事か！」

そういう事ですよ　刹那君。

そう、これこそ我が軍の次世代兵器『光線級ＢＥＴＡ銃タイプ』なのだ。俗にいうビームライフルだ。エネルギー補充がハイヴでしか出来ないという欠点はあるが、それを補ってあまる程の代物だ。

当然、『重光線級ＢＥＴＡ銃タイプ』も用意した。俗にいう、大型ビームライフルと言って過言ではないだろう。

「これがあれば、すぐに点数など取り戻せるだろう。これからも、期待しているよ」

あまり手を貸す気はなかったが、見た目をガンダムとかにしてしまった以上　どうしても作りたくなってね。少しだけ手を貸しちゃったよ。人間達の驚く顔を見に、私も次の戦争に顔を出してみるかな。

ＢＥＴＡって汎用性高いよね…主に武器としても（後書き）

こういうＢＥＴＡの活用方法もありだと思って書いてみました。ＢＥＴＡの中にはダイヤモンドより固い装甲を持った者もいるし、今後も色々改造できそう。

人間相手に〇ミサイルは、反則でしょう

現在、基地攻略作戦を見学しに来ております。この間、二人に渡したビームライフルの性能をこの目で見る為にね。

開戦して僅かに時間で基地を制圧か…

「ふっふっふ、圧倒的ではないか我が軍は・・・」

どの基地にも対ＢＥＴＡ戦用に作られて物が殆どで、対人相手の基地などこのご時世　ほとんど存在しない。

「二人とも使い勝手はどうだい？」

まぁ、本日の獲得ポイントを見る限り問題なさそうだがね。

「やはり、性能面での劣化は否めぬ。
だが、このグラハム・エーカーに不可能はない！」

「機体のバランスが悪いな。
基地に戻り次第、調整する」

そうやって、どんどん改修していってください。だけど、私が聞きたいのは武器の使い心地なのね。

「で、新兵器の方はどうだった？グラハム」

「先制攻撃用としては使えるだろう。
だが、対人戦ではインターバルの長い兵器は使い物にはならん」

最初の一手しか使えぬか…改造が必要か。

「刹那の方は？」

「右に同じ。
もっとも、近接戦闘が主体なので　ビーム兵器は使い勝手が悪い」

そうか…でも、こればかりはどうしようもない。頑張れとしかいいようがないね。

「それで、君達はもうポイント稼ぎはいいのかい？」

私が感じ取った限りでも、まだ基地内部には軍人が籠城しているのが分かる。当然、我が軍でもそのポイントを取得する為に皆が精を出している。なんせ、戦術機に乗れない人にとって基地の残党狩りは、よいポイント稼ぎになるからね。

家族の為に頑張る男達って素敵だよね。

「ふ、私達は既に十二分に稼がせてもらった。
あまり、皆のポイントを奪っては悪いだろう」

優しいね　グラハムさん。やはり、出来る男は違うという事かな。
これで、ロリコンでなければ　さぞかしモテモテだった　だろうにね…。

「ノルマは達成した」

ノルマね…もはや、作業になってきたか。もう少し歯ごたえのある

基地を攻めさせねば駄目だな。

「お…基地の生存者が0になったね。では、かえ「大変です。レイア様！！」」

返ろうと思ったらCPから連絡が来た。一体何を焦っているのだ。

「たった今、米国から核ミサイルが発射されました。到着まで5分です。ただちに撤退してください」

・・・
・・
・

人間相手に核まで持ち出してくるとはね…えげつない。では、早々に撤収するよ。

「各員聞こえたと思うが、間もなくここに核ミサイルが着弾する。全員ただちに撤収せよ。メガワームはこれより三分後に出発する。遅れた者は置いていく」

「2分では、そう遠くまで離れられないぞ。大丈夫なのか？」

まぁ、本来なら無理だろうね。だから、今回だけは私が少しだけ力を貸してあげるよ。

「今回だけサービスだ。メガワームを私のA・Tフィールドで守ろう。核ミサイル程度では突き破れんよ」

「なるほど、私達は先に避難させてもらおう」

そう言い残し、グラハムと刹那がメガワームに避難していった。

それにしても、なぜ今回に限って核を使ってきたのだ。今までだって使う機会はあったはずなのに…まぁ、考えたところで無駄だな。

「さて、何名欠員がでるかな」

人間相手に〇ミサイルは、反則でしょう（後書き）

最後まで読んでくれてありがとう。

色々と矛盾があると負いますが
ご寛容にお願い致します。

さて、次回は、人間サイドでも書いてみようかなと思います。

欲とは恐ろしい物だ。（ｓｉｄｅ　人類）（前書き）

きっと、こんな衛士たちも居るだろうと思い書いてみました。

欲とは恐ろしい物だ。（ｓｉｄｅ　人類）

Ｓｉｄｅ　とある衛士

オリジナルハイヴを潰してから、全てが変わってしまった。もちろん、悪い意味でだ！人類が総力を挙げて、オリジナルハイヴ…いや、『あ号標的』を潰したまでは良かった。俺もその報告を聞いたときは、正直感動のあまり涙が出てきた。人類の記念日と言ってもいいだろう。

しかし、事件が起こったのはそれから桜花作戦より半月後の事だ。全世界に向けて重大な発表があると政府から通達があり、我々軍人も食堂やミーティングルームなどＴＶのある部屋に集まった。

そして、そのニュースを見た時はもう訳が分からなかった。ニュースキャスターの頭がいきなり吹き飛んだり、全員がレイアと名乗る少年の命令に通りに黙っていたり、あまつさえ『愛玩用ＢＥＴＡ』なんて物まで紹介していやがる。正直、悪い夢でも見ている気分だった。

その日から世界は一変した。

戦争派と和平派で日々争っているのだ。俺だって、馬鹿じゃないから今回の一件がどれだけ重要なのかは理解できる。なんせ、人間と対話が可能で人間を言う存在なのだ。

『ＢＥＴＡ軍総務部のイヴです。
ＢＥＴＡ軍より本日のニュースをお知らせいたします。
先日、我が軍によって行われたポーランド前線基地攻略作戦におき

まして
米国の核兵器による攻撃で死傷者９５人を出しました。
その為、ＢＥＴＡ軍の９５名分の人員を募集致します。
人数に限りお早めにお近くのハイヴへお越しください。
我々、ＢＥＴＡ軍は貴方達の応募を心よりお待ちしております『

今日もＢＥＴＡ軍からニュースが流れてきた。

また一つ、前線基地が潰されたようだ。それも、人間の手によって…。正直、ＢＥＴＡに殺されるよりたちが悪い。白旗を振ってもＢＥＴＡ軍の連中は、問答無用で皆殺しにしてくるそうだ。ＢＥＴＡのように対話が望めない相手ならまだしも、同じ人間だぞ！

ウィーーーーーーン

基地内部に非常警報が発令された。

ＢＥＴＡ軍がポイント一覧表を発表してからというもの　人員募集があるとすぐにコレだ。

『現在、戦術機２機が我が基地より逃亡した。現時点をもって逃亡者をＢＥＴＡ軍と認定する。アルファー小隊は、直ちに出撃し撃墜せよ。なお、目標は我が軍の情報を持ち出している疑いがある。ハイヴにたどり着く前に必ず撃墜せよ』

どうやら、うちの小隊の出番の様だな。

ハイヴ前にて。

「悪く思うなよ。こっちも仕事なんでね」

うちの小隊は、ハイヴに逃げ込むギリギリで目標を撃破する事ができた。本当に馬鹿な連中だ。追手を振り切って逃げるというのは、通常難しいのだよ。

そのおかげで我々は苦も無くハイヴまでたどり着けたけどね。

「さて、諸君！我々は当初の予定通りＢＥＴＡ軍に鞍替えする！これからは、酒に女、うまい飯！なんでも好きなだけ食えるぞ」

「「「おぉぉぉぉぉぉ！！」」」

それにしても、こうも上手くいくとはね。基地でも不穏な空気が流れていた為、誰かが行動するとは思っていた。我々は、それに便乗して逃げればよいだけだ。逃げた二人も殺さずとも好かったのだが、あいにくと人数制限があるのでね。悪く思わないでくれよ。

「ようこそ諸君。

私はＢＥＴＡ軍所属グラハム・エーカーだ。ようこそＢＥＴＡ軍へ」

見慣れぬ期待がお出迎えにきた。恐らく、ＢＥＴＡ軍のエースなのであろう。

「よろしく頼む。

私は、元イギリス軍所属アベル・ジェイラスという」

「君等は運がいい。君たち全員でちょう募集人数一杯だ」

私達はそれを聞き、全員が武器をロックした。

危うく、仲間同士でまた殺し合いをする所だったぜ。

欲とは恐ろしい物だ。（ｓｉｄｅ　人類）（後書き）

次回は…次回は…やっぱり横浜かな？

まだ、昼間だぜ…これがリア充というやつか（前書き）

毎度毎度、おかしな内容で申し訳ありません。

そして、読んでくれている方々へ…いつもありがとうございます。

まだ、昼間だぜ…これがリア充というやつか

人材も集まりだし、我がＢＥＴＡ軍も実に充実してきた。なにより、資源が豊富の為　弾薬等は使いたい放題なのがいいね。潰した基地からＢＥＴＡを使って使えそうなものは全て運び出しているからね。

そして、何よりみんなのやる気が凄まじい。モチベーションが半端ないよ。よっぽど、うまい飯や酒に飢えていたのだろう。

おまけに、我がＢＥＴＡ軍では基本的に防衛はＢＥＴＡが担当するから侵攻作戦以外で死ぬ事も無い。そのせいで死亡率は　人類がＢＥＴＡと闘う事に比べて少ないしね。更に、仮に侵攻作戦で敵側に捕まったとしてもＢＥＴＡと違い相手は人間だ。捕虜として扱われる可能性が高い…貴重な情報源としてね。

さて…次は何処の基地を攻め落とすかな…

基地の名前を書いたルーレットを回した。そして、ダーツを投げ次回攻め落とす基地を選択する。どこを攻め落としても構わないのでいつも適当に決めている。まぁ、アメリカや横浜は省いているけどね。なんせ、近くにハイヴがないから駐在基地を用意できないからね。

アメリカはともかく横浜には少なからず縁があるからね。是非、ごあいさつに向かわないといけないからさ。

「さて…思い立ったら吉日というし、横浜の魔女さんにご挨拶に行くとしよう。ついでに、今申請されている霞型ＢＥＴＡのモデルも見てこないとね」

なんせ…マブラヴをやったのなんて数十年前だ…一人一人の顔なんて正直殆ど覚えてないからね。せめて、申請者も顔写真位は持ってこようぜ。

私は備え付けの通信機を手に取った。

『あ、刹那。これから横浜に行くけど何か伝えてきて欲しい事はあるかい？』

『俺は、原作キャラと面識がないから特にない。それに、興味は無い』

ふむ、刹那は原作との接点はないのか…まぁ、良い。
では、グラハムにも聞いてみるかな。

『グラハムかい？』

『あ、パパ？パパは今お姉ちゃんと…』

・・・
・・
・

おぃぃぃぃぃ！　電話位自分で取れよ！

というか、パパ！？　お前どんなプレイしているんだよ。それに、真昼間からナニやっているんだよ。たしかに、今日は休日だから文句は言わないよ。本当に、こんなのが我が軍のエースでいいのか…

『ゴホン。失礼した。何か急用ですかレイア殿？』

『…色々突っ込みを入れたいけど、もういいよ。えっとね、これから横浜に遊びに行くけど何か伝言あるかい？』

『横浜か…以前に米国から視察と名目で一時滞在していたな。その折に、とある女性から告白された事がある。すまないが…その女性に「私は、こちらで宜しくやっている。君も早く良い人を見けるように」と伝言を頼まれてくれ』

…鬼畜だ。

告白の結果を　代理人を通して言うか…しかも、お断りの返事だよ。

まぁ、私も言った手前引き受けるけどさ。

『まさか、そんな伝言を引き受ける事になるとは思ってもみなかったよ。それで、相手はだれ？というか…まだ生きている？』

『その点については問題ない。なんせ、相手はＡ－０１部隊の涼宮茜だからな…紳士としてちゃんと返事をせねばならんと思っていたのだ。生憎と返事をする前に、米国に急に呼び戻されてな。悪いが、よろしく頼む』

だったら、紳士らしく自分で返事をしに行かせようかな…。

『了解だ。では、一句たりとも間違えずに伝えてくるよ』

さてさて、では身だしなみを整えて出発するとしよう。

まだ、昼間だぜ…これがリア充というやつか（後書き）

最後まで読んでくれてありがとう

原作キャラすくな人が先に謝っておきます

香月先生みたいな有能なキャラは、作者の力量では激しく劣化します。

ご承知おきを。

ハムの人…知ってますよね？

横浜って、本当に何もないんだな。昔は、中華街とかあって賑わっていたのに残念な事だ。だけど、お蔭で横浜基地はすごく見つけやすかったよ。だって…荒れ地の中にポツンと馬鹿でかい基地がある んだからね。

まずは、門番兵にご挨拶と行こうじゃありませんか？

「ハロー、人類の皆さん。
暇だったから遊びに来たよー」

門についてみれば、門番兵どころの騒ぎじゃなかったけどね！　以前に世界中のお偉いさんに挨拶した時と同様に…いや、それ以上の兵隊が集まっているな。流石は、極東の最大の防衛拠点。

おまけに、武御雷までご登場とはね…国連だけではなく、日本…いや、ここでは帝国軍まで来てくれるとは大層な歓迎じゃないか。

『動かないでもらおう。
大人しく捕まるのならば命の保証はしよう…抵抗するようなら力ずくで捕まえさせてもらおう』

私の前に立ちふさがり、ウダウダと…本気で私が捕まえられると思っているのか。もし、それが可能ならば　〇ワイトハウス前で私は既に捕まっているよ。

「邪魔」

ドーーーン

『きさま！！』

A．Tフィールドを上空に展開し、立ちはだかっていた戦術機をプレスした。少々、力加減を間違って、地面に大穴を開けてしまったよ。

「私の前に立ちはだかったり　攻撃してこなければ何もしないから安心したまえ。
早速だが、これから言う人物　早急に呼び出してもおう」

横浜基地の香月先生の部屋。

私の目の前には、香月先生と霞がテーブルを挟んで向かい側に座っているのだ。涼宮の方は、現在作戦行動中らしく、この基地に居ないそうだ。だから、『呼べ』と一言命令しておいた。

「おや、気に入りませんでしたか。
貴方がコーヒーやお酒が好きだと聞いて厳選して選んできたのですが」

折角、私が我がBETA軍の中から1級品を選んできたというのに何が気に食わないのだ。コーヒーは、ブルーマウンテン。お酒の方はロマネ・コンティの三十年物だぞ。この時代じゃ、一生口に出来ないような嗜好品だ。

「いいえ、頂いておくわ。

…それで、今や世界に名を轟かす大スター様が私に一体何のご用で？」

「そんな敵意をむき出しにしないで欲しいですね。
これでも、少なからず貴方達とは縁があるんですけどね」

霞の耳がピコンピコンと動いている。何が何でも私の腹の内を探りたいようだな。

「そう、貴方みたいな個性的な人と会ったのならば忘れないと思うけど…何処であったのかしらね」

個性的ね…誰のせいでこんな人間離れした体になったと思ってやがる。それに、横浜の魔女とも呼ばれる程の人物が、凄乃皇四型が持ち帰った記録を解析してないはずがない。

「しらを切りますか…映像で見たのでは　ありませんか？　私が、凄乃皇四型が放つ荷電粒子砲を防ぎ　Ｇ弾に飲み込まれる姿をね」

「っ！！？？　やはり、見間違いでは無かったようね。
最初の映像を見た時はまさかとは思っていたけど…貴方、一体何者？」

「あなた方の敵…ＢＥＴＡの親玉である『あ号標的』ですよ」

これが、今の私だ。

「ふぅ、秘密と言う事ね。まぁいいわ、それで一体　ここに何をしにきたの？悪いけど、あんたが欲しがるような物はここには無いわよ。それに…長居されると、ここにも核が撃ち込まれそうだから早

々に出て行ってくれないかしら」

こちらの情報を集めるのを諦めたのか、邪魔者扱いされる。酷いな、せっかく会いに来たのに。

はいはい、帰りますとも…用事を済ませたらね。

「＞＞動くなよ＜＜」

私は霞の頭に手を置いて、身体情報を読み取った。これで、霞型ＢＥＴＡは問題ないと。後は、もうすぐ来る涼宮に伝言を伝え次第帰るか。

数分後。

「涼宮茜　ただ今　参りました」

「ほら、来たわよ。さっさと用件済ませて帰りなさい」

すぐに終わらせますよ。

「我がＢＥＴＡ軍のハムの人から君宛てへ伝言だ。しっかりと聞け」

「え、ハ　ハムの人？」

そうだよ。ハムの人と言えば一人しかいないだろう。

・・・

・・

・

え！？知らないの？

うーーん、もしかしてグラハムに騙されたのかな？まぁ、とりあえず伝言だけは伝えておくか。

「『私は、こちらで宜しくやっている。君も早く良い人を見けるように』だそうだ。男運が無かったと思って諦めるんだな」

部屋を出た時に鳴き声が聞こえたような気がするが…気のせいであろう。さて、そこをどいてもらおうか…国連軍諸君。

私は、それだけ伝えて基地を去った。

ハムの人…知ってますよね？（後書き）

お歳暮の時期になるとよくハムの人がＣＭに出てましたよね。

放送事故って言うレベルじゃねーぞ（前書き）

いつも読んでいただきありがとうございます。

もはや、マブラブとはかけ離れておりますが

気にしたら負けだと思って流してください。

放送事故って言うレベルじゃねーぞ

横浜も存外つまらなかった。

そして、愛玩用ＢＥＴＡ霞タイプを納品し終えた。働くみんなの要望を叶えるのは上司の務めだと思って頑張ってたよ。きっと、注文した人も色々な意味でヤる気が出たに違いないと信じておこう。

そして、私は私室に備え付けたＴＶを見ている。

※『』の中は、ＴＶの音声です。

ＢＥＴＡ軍の人達が暮らす街の公園にて。

『人類の皆さん。見えるでしょうか？あれが、ＢＥＴＡ軍の人達が暮らす人たちの街のようです。戦時中とは思えない程　平和です』

アメリカのＴＶ局から是非　撮影させてくれとの依頼が来ていたので暇つぶしに許可したのだ。下手に編集されないように生放送を条件にしたけどね。

我が軍の素晴らしさが人類に知れ渡れば、更に楽しい事になるだろう。入居者殺到で更にえげつない争いを繰り広げてくれること間違いなしだ。

『どうやら、今日は休日と言う事もあり　街の公園には親子連れの人達が沢山いらっしゃいますね』

実にぼのぼのとした映像が放送されている。子供と遊ぶ親子、公園に隣接したカフェで食事を楽しむ親子。どれこれも、外の人間にとっては驚愕だろう。

『あ、そこの双子を連れている親子の人がいます。是非、質問してみたいと思います！！　すみませんが、少しお時間よろしいでしょうか？』

『私か？何用かね？』

公園で遊んでいるある親子らしき人物にインタビューを持ちかけている。

・・・
・・
・

おぃ！！　なんで、お前がそこに居るんだよ！　昼間っからニャンニャンするのが日課だっただろう。

『あ　貴方は、もしかしてグラハム・エーカーさんではありませんか？
お子さんまでいらっしゃったとは知りませんでした』

『ふ、男である以上　娘の一人や二人いなくてどうどうする？
私をそこらへんに居る者達を一緒にしないでいただこう』

『パパ、早く遊ぼう』
『そうだよ　パパ。早くおうちに帰ってキレイキレイして』

そりゃ、一緒にしたら周りの人に失礼だろう。
明らかに、お前の子じゃねーだろう。生放送なのに、キレイキレイとかやめろぉぉぉぉぉぉ！！

『そ、そうですか。失礼いたしました』

キャスターの人も一瞬困ったようだが、流石はプロ。一瞬で立て直した。差しさわりの無い質問をしてその場を濁してくれた。

その後は、街の食糧生産工場などを映像が流れた。映る皆は、誰しもが幸せそうな顔をしていた。インタビューに答える全員が『ＢＥＴＡ軍に来て　生活がよくなった』と口をそろえて言うのだから、見ていて楽しかったよ。

ＢＥＴＡ軍の人達が暮らす街のペットとの触れ合い広場にて。

この時代でペットを飼うなど余裕のある家は殆ど居ないだろうが…ＢＥＴＡ軍では疲れを癒す為にペットを飼う事を推奨している。当然、ペットのかかる食費は無料としている為、多くの人が動物を飼っている。

『見てください。この動物たちを！
ＢＥＴＡ軍では、子供の情操教育の為にペットの飼育を推奨しているようです。
とっても可愛らしいですね』

見たか我が軍の力！　ペットのもふもふ攻撃は最強だ。

『あそこに座っている男の子にちょっと質問してみますね。

すみませーーん、少し質問よろしいですか？』

『なんだ？』

公園のベンチに座り、ペットと様子を眺める　褐色肌の少年にインタビューを始めた。

『貴方は、一体何の動物を飼っているのですか？』

『キツネだ』

・・・

・・

・

お、お前もか！！

待て待て待て！　お前のは、ペットじゃないだろう！　さっきのグラハムは、ぎりぎりセーフ？だけどお前のは、完全にアウトォォォォ！！

『キツネですか！？　既に絶滅したと言われて、図鑑でしかキツネを見た事が無いんです。

是非　視聴者の皆さんにも　この機会に生でご覧いただきましょう』

やめろぉぉぉぉぉぉ！！

『わかった』

刹那が、自分のペット？を呼び寄せた。しかし、ＴＶに映っている

のは、メイド服を着たキツネ耳の某賢狼にクリソツな少女だった。

『わっちを呼んだかや？ご主人様』

外でご主人様とか呼ばせるなよ！　というか、これ全世界生放送だぞ！？　恐怖のＢＥＴＡ軍のイメージが台無しだろう。

もう、見るに堪えかねてＴＶの電源を切った。

今度からＴＶ来るときは、あいつら隔離しておこう。

放送事故って言うレベルじゃねーぞ（後書き）

次回は、感想板でご希望のあった新型ＢＥＴＡのお披露目会をしようかと思います。

みんな、人類相手にえげつないです。

間引き作戦…でも、間引かれるのは人類だけどね（前書き）

読んでくれてありがとう。

皆様から頂いたＢＥＴＡ案を元に
登場させてみました。

間引き作戦…でも、間引かれるのは人類だけどね

鉄原（チョル）（ウォン）ハイヴ間引き作戦の見学に来ております。

「ほほぅ、試に作っては見たものの…存外使えそうだな」

人類側の大規模な間引き作戦だ。間引き作戦とは、ハイヴ周辺域に存在するＢＥＴＡの個体数が増加し、一定域内での飽和量に達するとその外縁部にいるＢＥＴＡが押し出される形で開始される。この大規模侵攻を事前に阻止するため作戦の事である。

もっとも、今回の飽和状態になったのは新型ＢＥＴＡのせいなのだけどね。

神の声により、三体の新型ＢＥＴＡと改良型重光線級ＢＥＴＡのお披露目会だ。

一体目のご紹介だ。

名前：拠点防衛用超弩級ＢＥＴＡシャムシェル
全長：５００ｍ
備考：攻撃力方法が左右の触手と体当たりのみ非常に少ない。ちなみに、触手の先からは
　溶解液がでる作りになっている。
　※空は飛べません。要塞級みたいに地面を這いずって移動
その他：これを見た衛士は、『でかい、○ンコが迫ってくる！』と女性ＣＰに報告した為、
わいせつ罪で軍事裁判にかけられる事ことになった。

言うまでもなく、エ〇ァンゲリオンに出てくる使徒のモチーフにした新型だ。光る鞭の武装は用意できなかったので、代わりに旧『あ号標的』が装備していた触手を取り付けた。当然、先端部は男のアレに似せておいたよ。装甲には、モース強度１５以上あると言われる要塞級のかぎ爪状の衝角と同じものを使っている。なんせ、５００ｍもあると誰が打っても外しようがない位の的だからね。無駄に頑丈にしておかないと再建費用が…

二体目の紹介だ。

名前：人型腹マイトＢＥＴＡマタニティ
全長：１．５ｍ
備考：回収した人類側の死体を元にＢＥＴＡ軍が利用している爆薬を腹に詰め込だ新型だ。
　爆発の威力は、手榴弾一発程度の為、戦術機や装甲車などには効果は期待できない。

近年は流行りのリサイクル精神に乗っ取ったエコＢＥＴＡである。なんせ、人類側の死体など毎日大量に量産されているからね。人類側の基地から押収した火薬を無駄なく仕えて便利極まる。開けた平原などでも戦闘では、活躍の場は少ないが　市街地などの隠れる場所が多い所で真価を発揮するだろう。

三体目の紹介だ。

名前：昆虫型ＢＥＴＡイナゴー
全長：３～１０ｃｍ
備考：人間子供が素手で倒すことが可能なＢＥＴＡである。但し、数万という大軍で
行動を行う為　いくら弱いと言ってもその中の飛び込むのは無謀と

言えるだろう。

腹が減っては戦ができん！という諺がありますよね。人間が備蓄している穀物などの食料を食い荒らす事を目的に作り上げたＢＥＴＡである。小型である為　非常に排除しにくい。なぜ、食糧に限定したかというと　ちゃんとした理由がある。人間生きる為には食わないといけない…つまりだ、食い扶持を減らしてしまってはイナゴーの効果が半減してしまうのだ。その為、あえて人間は殺さないように作ってある。

「それにしても、圧倒的物量の前には人類とはいえこの程度か…つまらん」

眼下では、シャムシェルに戦艦の支援砲撃と戦術機の過剰なまでの攻撃が集中している。しかし、シャムシェルの強固な装甲の前に前線は既に崩壊気味だ。

そして、歩兵たちも前線が崩れたせいでマタニティの餌食になっている。抱き着かれたら最後、そのまま自爆されてあの世行きさ。

『人類側の食糧保存庫の場所は分かったか？』

『はい、どうやら海上にある戦艦を物資の保管庫として利用しているようです』

まぁ、海に面しているハイヴならそうするか…

私は、イナゴーに向けて海上にある戦艦を襲う様に命令した。

正直、襲われた戦艦は　たまったものではないだろう…ただでさえ

キモイＢＥＴＡが小型数万という数で襲って来るのだ。まさに、地獄絵図だろう。

さてさて、改良型重光線級ＢＥＴＡを最後にご紹介しましょう。人類側って光線級の攻撃を回避するプログラムを組んでいるでしょう？あれって、元々ＢＥＴＡが味方を撃たない事を想定に作られているのですよ。つまりだ！　味方ごと打ち殺せば人類側は回避できないと言う事になるのですよ。

「改良型重光線級ＢＥＴＡ；ＴＡＭＡの性能を見せてもらおう。極東一のスナイパーと呼ばれた実力を存分に発揮してくれたまえ」

旧『あ郷標的』のデータを元に再生した「珠瀬　壬姫」の頭脳を搭載しているのだ。当然、自我などと言った余計な物は排除済みだ。

戦場は、新型ＢＥＴＡの登場により瞬く間に人類軍の数が減っていく。圧倒的射程から司令官クラスの戦術機を確実に撃破していくＴＡＭＡは、極東一のスナイパーと名高い事はあった。

恐らく、後一時間もすれば壊滅するだろう。

グラハムと刹那の方も上手くやっているだろうか…敵の主力がこちらに居る間に中国を叩くというのが今回の作戦だ。この作戦がうまくいけば、残る強国はソ連、ＥＵ、アメリカあたりか…日本はぶっちゃけ、資源不足の為大した脅威でもない。

間引き作戦…でも、間引かれるのは人類だけどね（後書き）

次回は、ハムと刹那ｓｉｄｅでお送りする予定です。
そろそろ、中国が落ちます。

それが終ったら、少し過去編に戻って
レイアがここに来た当たりのご紹介をやろうかなと思います。

絆……という名の性癖（前書き）

読んでくれてありがとうございます。

そして、感想を書いてくれた方々
本当にありがとうございます。

そのおかげでいつも頑張れます。

今回は、刹那とハムの人の降下作戦の話です。

戦闘シーンはないです…

絆……という名の性癖

Ｓｉｄｅ　刹那

上空５０００ｍの戦術機航空輸送用ＢＥＴＡサンダーバードにて。

まるで全身が縄で縛られ身が締め付けられる程の緊張感だ。

「お互い初めての降下作戦だな　刹那」

「あぁ、今までは光線級の存在の為　降下作戦など自殺行為だったからな」

間引く作戦の隙を狙い、中国の首都を落とせとは無理難題を言ってくれる。いくら、主力部隊が居なくとも　常駐部隊だけでもこちらの倍はいるだろうに…。

「地上班からの連絡では、レーダー基地の制圧と対空迎撃可能な兵器は全て破壊したそうだ。もっとも、こちらの被害も甚大だそうだ…」

「後はエース部隊の出番と言うわけか…

それにしても、ここまで戦術機がばらばらの部隊も珍しいな」

グラハムや俺もそうだが…ほかの連中もチラホラと見た事あるような機体に乗っている。スーパーロボット系では、『ガンバス○ー』『エヴ○二号機』。リアルロボット系では、『サイバス○ー』『ゲシュペンス○』と…転生者は私達だけではないと思ってはいたがな。

ピピッピッピ

『まもなく、目標地点に到着します。パイロット各位は、機体の最終チェックをお願い致します。大変厳しい現状ですが、無事に帰還されることを祈っております』

ＣＰから連絡が入って来た。

この日の為に、用意された改良型光線級ＢＥＴＡ銃タイプを手に取った。これは、インターバルの問題をリボルバー式にする事でその問題を解決させた。ドックファイトでは、使えないだろうが降下中に戦術機を潰すのにはちょうど良い。

「お互い、生き残ったらパーティーでもやろうじゃないか　刹那」

「それはいい考えだな。だが…これだけは言わせてもらおう！　お盛んのはいいが、時と場所は弁（わき）えろよ」

『イヤ、そこは…らめぇ』

一人用のコックピットになぜか男女の営みの音声が聞こえてくる…。行く時もイク時も一緒というやつか…全く、どういう神経をしているんだ。

「ふっ、この程度　紳士の嗜みだ。それに刹那こそ、強化服を着ずに亀甲縛り一つで戦場に向かうとは…死ぬ気か？」

「何を言うかと思えば…この縄こそが俺とペットの絆！強化服など所詮飾りだ」

これは、出陣前の営みで結んだあいつとの絆…これがある限り、俺は死なん！

『あの…他の皆さんは、出撃したのでそろそろ出てもらえませんかね？』

・・・・
・・
・

「エクシア！出撃する！」
「同じく　スサノオ！出撃する」

今度、俺もペットと一緒に搭乗しようと固く心に誓った刹那であった。

数時間後。

Ｓｉｄｅ　レイア

「ＢＥＴＡ軍諸君！　君達のお蔭で中東アジアのほぼ全域を我がＢＥＴＡ軍の手中に収める事ができた。残る強国を倒すために皆の一層の健闘を期待する。では、まだまだ残党も居るだろうから、後は自由行動だ」

「「「「「「「「「「「うおおおおおおおおおおお！！！」」」」」」」」」」

グラハム、刹那などのエース陣の活躍により中国を落とす事に成功した。しかし、流石に我が軍の被害も酷かった。国連軍が介入してくれば、全滅もありえたかもしれないが…しかし、なぜか介入がなかった。おまけに、アメリカも動きはなかった…G弾が来た際は私自ら砲撃で撃墜しようと思っていたのだがね。

実に不気味だ。

人類側の動きも気になるが、まずは世界各地にイナゴーの配備を急ごう。そして、同じタイミングで我が軍に集まった世界が隠していた情報を一挙公開するとしようかな。食糧難に政治不信のダブルパンチだ。そして、オルタネイティブの情報も世界に公開しよう。

特に、オルタネイティブ5なんて公開した日には　世界が荒れて楽しそうだ。

なんせ、やろうとしている事が我々ＢＥＴＡ軍と被っているからね…選ばれた人だけ別の惑星に逃げるというあたりがね。人類の反応が楽しみだ。

絆……という名の性癖（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます。

くだらないネタを入れて申し訳ありません。

きっと、あの二人ならそういう風に戦場に行くのもありかなと…色々な意味でせいしを掛けている連中なので。

次回からは、少しレイアがこの世界に来た過去編をやります。

過去編：何で私が…（前書き）

亀の更新速度で申し訳ありません。

久しぶりの更新で作者も何を書いてたっけなと

実は読み直したり…

あい変わらず短いですが、ご容赦を

過去編：何で私が…

中国を落とした祝勝パーティーを行っております。

当然、費用は私の自腹だよ。まぁ、自腹と言ってもＢＥＴＡ達が作っている天然素材を使った料理を振るまっているだけだけどね。

私が居ては皆も楽しめないだろうから、別室でグラハムと刹那と飲んでいるよ。今回の作戦の愚痴を聞いてあげているよ。もちろん、聞くだけだけどね！！　その話を聞いているとこいつらが馬鹿だという事を再認識させられた。

何処の世界に、亀甲縛り一つで戦術機にのるアホが居るんだ…。

何処の世界に戦術機で戦闘しつつヤっているアホが居るんだ…。

「「ここに居る！！」」

二人がお互いを指差した。

あ、頭いてーーーｏｒｚ

なんで、こんなのがＢＥＴＡ軍のエースなんだよ。

しばらく三人で飲んだ後に私は、夜風に当たる為にハイブの外へと出た。

月が綺麗な夜空であった。もっとも、綺麗なのは見た目だけだがね…あそこは地球をはるかに凌ぐ地獄絵図となっている。

「私がここに来たのもこういう日だったな」

遡る事、今から数か月前。

なんか、ベットが硬い…まるで岩の様だ。毛布を掛けて寝たはずなのに夜風が冷たいよ。

私は、眠い目を擦りながら体を起こした。

「……なんだ、夢か」

見渡す限りの荒れ地！！

私は、確かに実家のベッドでティファニアと一緒に寝ていたはずだし…それに、月が一つなんて夢以外の何物でもない。

そういう訳で、さようなら私の夢。

プーーーーン
プーーーーン
プーーーーン
プーーーーン
プーーーーン
プーーーーン
プーーーーン

私の耳元で蚊が何度も往来してきた。

ブチ

「うるぜーーーー！！」

ドドドドーーーーン

おもわず力が入ってしまい、辺り一面をＡ．Ｔフィールドでプレスしてしまった。当然、自分もろとも…

夢なのにまるで潰されたかのように痛い…というか、これ夢じゃ無くね！！

そう思った瞬間、一気に眠気が吹っ飛んだ。

「ここ何処よ…」

３０分後。

少々取り乱したが大分落ち着いてきた。

まずは、落ち着いて私に身に起こった事を考えるんだ。恐らくだが…月が一つしか見えない事からハルケギニアではないだろう。ここがどんな場所かは、定かではないが…地球型惑星である為、当面の食糧には困ることはないだろう。もっとも、最近では食事をせずとも問題ないがね…ティファニアと暮らしている内に私もだいぶ進化したようだ。私にとって食事とは、煙草などの嗜好品と同じなのだよ。

次に、なぜ私がここに居るかだが…こんな芸当ができるのは、エルフしかいない。時間や次元、異世界、死後の世界などを自由に行き来できる人材を何人か知っているからね。だが、今回の一件は、恐らく…ティファニアが原因だろう。

私の記憶が確かなら寝言で『おいしそうなカニさんが一杯です。てへてへ…レイアさん、取ってきてください』とか言っていたような気がする。そのカニさんが何を意味するかは知らないが、その言葉を言い終えた後に”世界扉”の呪文を寝言交じりで唱えていた。

あの時、私も眠かったのでそのまま寝たのが間違いだった…ティファニアを起こすなり逃げるなりすべきだったが…眠気が勝ってしまったのだよ。

「とりあえずは、人里を探そう。うまくいけば、知的生命体位は、いるだろう」

私は、人里をと探す為にその場からとびだった。

過去編：何で私が…（後書き）

過去編はもう少し続きます。

過去編：いきなり終盤からスタートって…（前書き）

マブラブの世界って転生でいけるとしても、
正直きついと思うのは作者だけかな…片田舎で隠居とかできないし。

過去編：いきなり終盤からスタートって…

この世界に来て早二日目。

「ここも無人か…」

これで三つ目の街なのに既に廃墟と化して誰もいない。しかも、ここを廃墟と言っていいかも疑問だがね。なんせ、建物の残骸なんて何もない…あるのは、建物が立っていてであろう後だけなのだから。

だが、収穫はあった。

私の手には、世界地図が握られているのだ！！

これを見た時には、もうビックリしたよ。だって、身に覚えがある形だなと思ったら…日本とかアメリカとか国があるのだからね。いやー、懐かしいね。本当に何年振りだろう。

だが…人口６０億オーバーの地球にしては、人気が全くしない。無人のゴーストタウンなど早々ある物じゃないだろうにね。一体どうしたんだろう。

とりあえずは、海にでも潜って晩飯でも確保しよう。折角、地球に来たのだ。久しぶりに故郷の魚の味を賞味しよう。

海岸沿いにて。

パチパチ

リトルクラッカーを使ったダイナマイト漁のお蔭で大量の魚をゲットした。何匹かは、乾燥させて保存食にしよう。

焼け具合からしてまさに食べ頃だ…だが、生憎と食べるのは少し後になりそうだ。

「おぃおぃ、こんな場所で火を焚いたら居場所を教えているようなものだぜ。そんな事しいたら、良からぬ輩に身ぐるみはがされるぜ」

「はははは、ちげねー」

二人組の男たちが現れた。

「それは、ご忠告感謝します。それで…身ぐるみはがされる前にいくつか質問よろしいですかな?」

「あぁ、なんでもいいぜ」

どうやら、私の身に着けている宝石などがたいそう気になるようだ。いいだろ…エルフが作った品物だぜ。この世界じゃあ　二つとない貴重品だ。

「ここって、太陽系第三惑星地球であっているかい?」

「「はぁ?」」

うむ、実に予想通りの反応だ。

「いや、だからここは地球かって聞いているんだよ」

男達がお互いの顔を見合わせている。そして、私をまるで可愛そうな子を見る様な顔をしている。

「はっはははは、ここまで頭のいかれた奴は初めて見た。いやー、ＢＥＴＡのせいで頭までやられたってか」

「くっくっく、あぁそうだへ地球にようこそ。宇宙人さん」

二人が大笑いしている。

それにしても…あれ？今何か聞き捨てならない単語を耳にした気がする。

「おぃ、そこの人間。今、ＢＥＴＡとか言わなかったか？」

「あぁん？それがどうした」

なんてこった！！

確かに地球だけど…すでに詰んでいる地球じゃないかよ。早急に逃げ出したいが…この広い宇宙でハルケギニアの座標など分からんし、それに同じ宇宙にあるかすら疑問だ。…と言う事は、私に出来るのは迎えを待つだけと言う事か。

そうと決まれば、まずは情報収集だ。

「二人も不要だ…＞＞自害しろ＜＜」

パーーン

一人の男が銃口を頭に付けて引き金を引いた。

「さて、お前の知っている事を全て聞かせ持てらおうか…。安心しろ、すぐに仲間の後を追わせてやる」

「てめぇ！！　ぶっ殺してやる」

・・・
・・
・

数分後。

ご自慢のマシンガンもA・Tフィールドの前では、水鉄砲にも劣る。男を優しく尋問した後に母なる海へとお返しした。

なるほどね…ここが、あのマブラブオルタの世界か。しかも、桜花作戦三日目前ってどういう事だよ。こういう異世界来訪系とかは、原作開始前とか開始と同時に来るものだろう。なんで、もう終盤なんだよ。

「まぁ、原作嫌いじゃないし…少し手伝ってあげようかな。異世界だし、少しくらう羽目を外しても誰も文句はいわないだろう」

そうと決まれば、参戦しますか。大ぴらに参加して、無駄な混乱を招くと悪いから…原作組を反対側から単機で挑むかね。さぁーて、どっちが早く『あ号標的』にたどり着くか勝負しよう。

過去編：いきなり終盤からスタートって…（後書き）

うーーん、設定でハーレムを築くためにとか書いたのはいいが…
ハーレムに繋がる伏線すらはれなかったぜ。

細かい事は気にせずいっちゃいます。

次回で過去編ラストです。

過去編：置き去りの上に自爆って…（前書き）

いつも読んでいただきありがとうございます。

前回に引き続き過去編です。

過去編：置き去りの上に自爆って…

主人公一行の作戦が開始されたのを聞いて、私もオリジナルハイヴに潜っている。

それにしても…まったく、倒しても倒しても湧いてくるのだから性質が悪い。おまけに、北斗神拳は効果ないから「お前はもう死んでいる」ごっこが出来ないではないか。

モサモサモサ

前方に再び戦車級が山程湧いてきた。

「おぃおぃ、いい加減。そのキモイ面見飽きたんだよ。ラミエル…薙ぎ払え」

ドコーーーン

ラミエルの形状が変化し、前方の敵を荷電粒子方で薙ぎ払った。

いつみても、素晴らしい威力だ。前方にいたＢＥＴＡが綺麗さっぱり居なくなり、視界もスッキリだよ。それにしても…さっきからどうも我々に敵が集中している気がする。考えられることは一つ、「あ号標的」に主人公一行より危険度が高いと認識されたか…。

まぁ、あれの助っ人としてきているわけだし…構わないか。主人公一行には、最後に私も連れて脱出してくれれば、それでいい。

数十分後。

迷ったｏｒｚ

だんだんと深部に近づいているのは、土のメイジとしての直感でわかるのだが…こんな事なら、ゼルエルのビーム一撃で地下まで貫通させて「あ号標的」の居る場所に直接攻め込めば良かったな。

パンパン！！

あれ？今遠くで銃声が聞こえたぞ。と言う事は、近くに人間が居るという事か…道案内にはもってこいだな。

えーーと、どこだどこだ？

ラミエルを通じて銃声がした方を覗き見る。

「ふむ…大破した戦術機と生き残りの兵士が一人か。だけど、ただの人間が強化服一つで生き残れる程ハイヴ深部は甘くは無いよね」

機体がラプターである事から、恐らくアメリカ兵だろう。それに、こんな深部に居るという事は、何やら訳がありそうだね。色々とお話が聞けそうだわ。

私が考えている間に、唯一の生存者に闘士級ＢＥＴＡの魔の手が迫っていた。まだ情報を聞き出す前だから殺されるわけにはいかないんだよね。

私は手に持っていた黄薔薇（ゲイ・ボウ）をＢＥＴＡに向かって投擲した。

ズキューン

黄薔薇（ゲイ・ボウ）の直撃によりＢＥＴＡを沈黙させた。やはり、薔薇族の武器は強いな。拳銃で殺す事が困難な相手ですら一撃とは恐れ入る。

さて…まずは、ご挨拶と行きましょう。

「こんばんは、今日も良い天気ですね　御嬢さん」

「こ、こんばんは。…はっ！！　危ない所を助けていただきありがとうございます。私は、アメリカ陸軍所属アメリア・サーシャ少尉です」

やはり、アメリカか…。と言う事は、ここにいる理由は迷い込んだわけでないね。恐らく目標は、「い号標的」…アメリカが程から手が出る程欲しがっているＧ元素の精製プラントと言う事か。

それにしても、礼儀正しい挨拶とは裏腹に…随分と大胆な行動にでますね。

「いい加減、銃口を私に向けるのは止めてくれないかね。間違って引き金でも引かれたらたまったものではないからね」

「命の恩人相手に私も非常に忍びないのだけど…貴方の所属と目的を聞くまでは、下げる事はできません。それに、一体どうやってここまで来たのです。強化服すら身に着けず、槍一本で突破できるほどハイヴは、甘くはありません」

銃口を向けなければ、少しは長生きできたかもしれないが…残念だ。

「所属ね…あえていうならば無所属だよ。後、ここまでは歩きと空を飛んできたよ…いや、マジで。後ね、生身でここまで来れる様な人物に拳銃なんておもちゃ向けても何の意味もないよ。＜＜両足を打ち抜け＞＞」

パパン！！

「きゃあああああ！！」

甲高い悲鳴が響いた。

「『あ号標的』の場所を吐いてもらいましょう」

レイアの優しい尋問により、『あ号標的』の場所が判明した。もっとも、米軍が知っているのは横浜の魔女である香月先生によって改竄された情報ある為、どこまで正しいかが疑問ではあるが…少し位役に立つだろう。

そうそう、尋問を終えた女兵士の事だがＢＥＴＡに美味しく頂かれたのは言うまでもない。…私悪くないよ。尋問後に、床に放置していたらＢＥＴＡが沸いてきた勝手に食べられたのだからさ。

さて、『あ号標的』目指して出発！！

３０分後。

あ号標的の台座にて。

多少道に迷ったけれど、なんとか『あ号標的』にまでたどり着けました。『あ号標的』がいる部屋に入る際にシェルターの様な物があったので色々とぶっ壊してきました。

「それにしても、予想以上にデカいな…そして、触手もデカすぎだろう」

ゲーム画面で見た『あ号標的』は、あまり大きく感じられなかったが…実物を見てみるとマジでデカい！！

それにしても、来るタイミングが少し悪かったな…まさか、『あ号標的』を挟んだ向こう側で主人公一行とバトルの真っ最中だったのは予想外だ。そのおかげでどちらも私の存在に見向きもしない。

とっても、悲しい…私だって功労者なのに誰にも評価されない；；

おっし！！ちょっくら、反対側に回り込んで挨拶するかな。

「やっほぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！　A・Tフィールド全開！！」

私が挨拶をしにいった瞬間、凄乃皇による荷電粒子砲撃が私に迫って来た。思わず、広範囲に全力でA・Tフィールドを展開してしまった。そのおかげで、倒すべき目標であった『あ号標的』すら守ってしまうという失態をしでかした。

ドゴーーン

少々揺れはしたが、所詮よくみる荷電粒子砲撃だ。A・Tフィールド1枚すら破られなかった。そして、視界が晴れると凄乃皇から脱出ポットが大空向けて発射されるのが見えた。

「ひ、ひでぇ…置いてきぼりかよ」

・・・
・・
・

あれ？この後何かあったような・・・・

はっ！！

「ラミエル！！」

その瞬間、凄乃皇が自爆をした。

過去編：置き去りの上に自爆って…（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。

過去編はこれにて終了です。

次回からは、人類の汚い思惑についてやろうと思います。

ＢＥＴＡより人類の方が何倍も怖い（前書き）

いつも読んでいただきありがとうございます。

ＢＥＴＡより人類の方が何倍も怖い

某合衆国の秘密クラブにて。

高そうな天然素材をふんだんに使った食材が並べられている。
そして、ワインを片手に料理をつまんでいる複数人の男達がいる。

「最初は、新たな『あ号標的』など絶望したが…存外役に立ったな。まさか、中国を潰してくれるとはな」

「私が、国連に圧力をかけて国連軍の派遣を渋った功績を忘れないでいただきたい。あれには、相当苦労したのだよ」

「はっはっは、そうでしたな。おかげで、オルタネイティブ５の空席ができましたな。確か、議員Ａは愛人分の席が欲しいと仰っておりましたね。すぐに手配致しましょう」

「全く、ＢＥＴＡですら食い物にする人間とは恐ろしいですな」

「オルタネイティブ５を担っている大企業の会長とは思えないセリフですな。オルタネイティブ４の功績で大きな顔をしているアジア連中にいい薬になったと喜んでいたではありませんか」

「こりゃ、一本取られましたな。ところで…いつごろオルタネイティブ５を実行に？」

「既に、オルタネイティブ５推奨派が各地で動いている。もう間もなく、実行に移されるだろう」

「それにしても、『全人類で選ばれた１０万人を地球から脱出させる』となっているが、その選ばれた人類の半数以上がアメリカ人だと言う事に一体どれだけの人間が気付いているのかな」

「誰も気づかんさ…なんせ、この計画をしている物が極めて少ないからな。他国のクズや我が国の国民が気付く頃には我々は既に宇宙に居るさ」

この会話が、まさかＢＥＴＡに盗聴されておりそれがあろう事か生放送で世界中に放送されているとはここに居る者達は思いもしていないだろう。

ちなみに、新型の隠密撮影用ＢＥＴＡ：アンダースポット　によって放送されている物である。

プチン。

私は、見るに見かねてテレビを消した。

・・・
・・
・

「我々ですら食い物にするとは…人間怖いね。だけど、この放送を見た世界中の人間の反応が楽しみだと思わないかい？グラハム、刹那」

「間違いなく。暴動が起きるだろうな。特に先日の生き残り達にとっては、寝耳に水だろう」

「同じく」

やっぱり、二人もそう思うか…。だが、それがいい！！

内部から瓦解していく様を見るのも悪くは無いだろう…だが、その前にやるべき事があるな。

「ちょっくら、宇宙(そら)にいって人類の希望とやらを我々ＢＥＴＡ軍の宇宙船にしようと思うのだが、どうだろう？」

「ついに、ＢＥＴＡ軍のポイント表に宇宙旅行を追加するという事か…娘達と行くと三人分か。お父さんは、頑張らないといけないな」

宇宙旅行か…悪くないね。宇宙船が確保できたあかつきには、宇宙旅行も視野に入れておこう。

「一つ聞きたい」

おろ、珍しく刹那が質問してきた。

「なんだい？刹那」

「宇宙で出産したら…その子は宇宙人なんだろうか？」

・・・

・・

・

しらねーよそんなの！！

余談だが、例の特別生放送は視聴率が全世界で７５％を超えた。まさに、世界的記録を塗り替えたと言っても過言ではないだろう。途中から生放送の一件がばれてしまい、隠密撮影用ＢＥＴＡが始末されたのは残念だが…あの議員たちの慌てようは実に楽しい物だった。私は、すかさずＢＥＴＡ軍総務部のイヴに連絡を付けて、オルタネイティブに関するすべての情報を公開させた。相手が先手を打って偽情報を流さないようにね。いやー、良い仕事をした。
やはり、秘密主義はよくないよね。

ＢＥＴＡより人類の方が何倍も怖い（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます。

やっぱり、戦時下でも上流階級の人間は自己の利益ばかり考える物ですよね。

悪は滅びるべし（前書き）

いつも読んでいただきありがとうございます。

悪は滅びるべし

今、世界は浄化への一歩を踏み出した。

先日、我々ＢＥＴＡが流した生放送と公開されたオルタネイティブの詳細情報のおかげで世界規模の暴動が起きているのだ。当然、各国もＢＥＴＡの戦略だとか偽情報だとか言ってはいるが、無駄だろう。

なぜなら、私がオルタネイティブ５で使用される予定の宇宙船を全て抑えたからね。そして、その宇宙船の一機を証拠として、太平洋に着水させている。言い逃れようのない証拠だ。

念の為、世界各国の情報を確認しておくか。

「アダム、世界各国の状況は？」

「概ね、レイア様の予想通りです。国連軍並びにアメリア軍に対するバッシングが世界規模で行われております。特に、アジア一帯でのバッシングが酷く、既に銃撃戦になった場所もあるそうです。また、米国内でも政治に対しての不満が爆発し各地でデモが行われているとの事です」

この世界で唯一の大国であるアメリカ相手に世界中の国が襲い掛かるか…いいねー。

世界が狂喜で満ちていく。

「では、ここら辺で私が世界の不満を解消すべく手を差し伸べようじゃないか。生放送の準備をしてくれ」

「わかりました」

アダムとの通信を切った。

ＢＥＴＡ軍報道局にて。

『世界中の皆さん、こんばんは。『あ号標的』のレイア・ド・ラシエール・フォン・ヴェーグルです。今の皆さまのお気持ち心中お察し致します。今まで信じてきたものに裏切られ、見捨てられ、あまつさえ捨て駒扱い・・これでは死んでいった仲間もうかばれないでしょう。そこで、私は皆様に出来る事は無いのかと思い色々と考えました。そして、思いついたのです…先日、我々ＢＥＴＡ軍の生放送時点でのアメリカの全国会議員並びに大統領、オルタネイティブの情報を知りえた国連軍とアメリカ軍上層部の全員の首を差し出せば、三か月間我々ＢＥＴＡ軍は　全ての活動を停止致します。もちろん、攻めて来るようでしたら防衛はしますけどね』

決して悪い取引では無いはずだ。だって、三か月で死ぬ人間の数は優に数万…下手すれば数十万だ。それが、数百人の首を差し出すだけで済むのだから実に効率のいい取引だ。

『誰の首を差し出せばいいか分からないでしょうから、我々ＢＥＴＡ軍の方でオルタネイティブの情報を知りえた人達の情報を公開しましょう。案外、皆様の身近に住んでいるかもしれませんよ…。我々と闘うか、人の命をゴミとも思わない連中の首を差し出すか、お好きな方を選ぶといいでしょう。あぁ、言っておきますが…政治家の首が出そろうまでは我々の活動は停止しないのであしからず。最

後に、これを聞いてくれている皆に一言……今こそ一丸となり、巨悪の根源を根絶やしにする時である！！立てよ　国民！！そして、自らの手で平和を掴み取るのだ！！』

「はい、カット！！お疲れ様でした　レイア様」

ふぅー。

やはり、なれない事は難しいね。

これが私に出来るせめてもの慈悲だ…三か月の平和を勝ち取る為に頑張ってくれ。少なからず応援しているよ。

もちろん、こちらの進軍の手は休めないけどね。

「おっし！！次はヨーロッパを全部落すぞ！！　人類が短い平和を勝ち取るか、我々が先に根絶やしにするか勝負といこう」

ちなみに、その日以来アメリカ各地で議員が殺害さえる事件が多発した。もちろん、殺害された議員が偽物でないかを確認する為に我々ＢＥＴＡ軍が死体を回収し、検証した後に生き残りと死んだ人数を放送していった。

Ｓｉｄｅ　とある米国一般市民

例のＢＥＴＡ軍の放送から三日後。

私は、数十人の武装市民や他国の兵士崩れと共に国会議員宅の近くに身を潜めている。

「今、仲間の警備兵から連絡があった。議員が帰宅したそうだ。全員、準備はできているな」

「あぁ、問題ない」

今から、私がやろうとしている事が本当に正しいかなど、もはやどうでもいい。例え間違っていたとしても、誰も責める事など出来ないのだから。

一時の平和の為、死んでいった同胞の為…悪いが死んでくれ。

「今から2分後に突入し、議員Ａの首を取る。いいか、相手を人間だと思うな…人間の皮を被ったＢＥＴＡや悪魔だと思え」

リーダーが全員を励ます。

あぁ、分かっているよ。自分たちを犠牲にして自分達だけ別の惑星に逃げようなんて連中同じ人間であるはずがない。

悪は滅びるべし（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます。

議員の死体回収方法ですが、ＢＥＴＡ軍に連絡をいれて、海に死体を流すもしくは、ハイブ付近に死体を放置でおｋというスタンスです。

逃げ足の速い奴ってどこにも居るものだ・・・（前書き）

いつも読んでくれてありがとうございます。

「使徒の使い魔」が行き詰ってしまい…こちらを更新更新。

逃げ足の速い奴ってどこにも居るものだ・・・

ＢＥＴＡ軍より平和への殉教者リストが公開された早一か月…世界では、未だに政治家や軍上層部を対象にしたテロやデモ行動が多々行われている。

「人類は実に愚かな生き物だ…だが、そこがイイ！！」

そのおかげで、軍の指揮系統は何処も壊滅的と言ってもいいだろう。中でも、米軍や国連軍の混乱ぶりは群を抜いている。おまけに、兵士の士気も最低ときたものだ。まさに、人類側にとっては踏んだり蹴ったりであろう。

「そのおかげで我々は苦もなくヨーロッパを落とせたわけだ…それにしても、歯ごたえが無さすぎるぞ！！」

「自業自得だ…だが、そんな人類に対しても一切の手加減はしない！！　それが俺達ＢＥＴＡ軍だ！！」

グラハムと刹那がかっこいい事を言っているけど、やっている事はただの虐殺だけどね。

ＢＥＴＡ軍の働きのお蔭で残る強国は、ソ連とアメリカだけだな…もはや人類の命は風前の灯だ。小国は多々残っているが、昆虫型ＢＥＴＡイナゴーの働きにより世界規模で飢餓が広まっている。今では軍人ですら一日二食あればいい位だ。

「しかし、本当に手加減しないよな…白旗振っている敵にすら問答無用だからな」

「愚問だな。例え俺が殺さなくてもほかの誰かが殺すだろう。ならば、俺のポイントにする方が有意義だ」

素晴らしいご高説ありがとう刹那。やはり、お前等最高だ。

「流石は、ガンダムマイスターだ。世界の歪みと闘うキャラの言う事は、やっぱり違うな。その調子でどんどん殺してくれ。もちろん、グラハムにも期待している」

「「任せておけ」」

レイア私室にて。

「殉教者リストの消化状況は、どうなっている？」

私は、部屋に備え付けてあった通信機でＢＥＴＡ軍のイヴに連絡をした。

「はい、現時点の消化率は約６０％です。最近では、議員や軍上層部も警備に戦術機まで持ち出すようになり、あまり進んでおりません。後、本日　我が軍に有益な情報を持って投降して来た米国の者が数名おりますが、いかが対処致しましょう？」

ほほぅ、人類側にいては逃げ切れぬと悟ったか、良い判断だ。

「本来なら情報だけを奪ったうえで始末するのだが…私もそこまで鬼ではない。情報次第では、次の補充要員として優先的に枠をあてがってやろう。それで、持って来た情報は確認したのだろうな？」

「もちろんです。グレイ・ナインの研究資料と凄乃皇の資料です」

おぉ！！　ついにこの時が来たか！！

我が軍でもグレイ・ナインについては研究させていたが研究者の質が米国とは比べ物にならなくてね。そのおかげで、研究はあまり進展がなかった。だけど、米国から持って来たという資料があれば我々でもG弾生成が可能になる日も近いだろう。おまけに、凄乃皇の資料まできたとなれば、ムアコック・レヒテ搭載型の戦術機も夢ではないな。

やる気がわいてきた！！

「イヴ…その者達を丁重に扱ってやれ。次回の募集で、その者達に枠をあげろ」

「畏まりました」

ソ連では、研究者や戦術機の開発に携わっている者達を捕獲してBETA軍で働くか死ぬかを選ばせてあげよう。きっと、捕まった者達も私の優しさに感化されて、喜んでBETA軍で働いてくれるに違いない！！

逃げ足の速い奴ってどこにも居るものだ・・・（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。

そろそろ残る強国もソ連とアメリカ…次点で日本？（香月先生がいるから）

だけになってしまった。

そして、次辺りからＧＮフィールドもとい…ラザフォード場によるバリア機構などでも搭載させようかなと思います。

人間やめるなんて簡単さ。（前書き）

久しぶりの更新@@
最後まで、頑張って駆け抜けます！！

人間やめるなんて簡単さ。

恐ロシア…じゃなかった、ソ連攻略作戦の見学に来ているレイアです。

国連北極海方面第６軍　ペトロパブロフスク・カムチャツキー基地にて。

指揮系統がボロボロの軍など、命という名の結束で結ばれたＢＥＴＡ軍にとって敵ではない。しかし流石、ソ連だけあって衛士の熟練度は目を見張るものがあるが…それでも、我々の新動力搭載型の戦術機があるかぎり、我々の勝利は揺るがないがね。

「切り捨て！！　御免！！」

「俺達はＢＥＴＡ軍。戦争根絶を目差す者！！　エクシア、目標を駆逐する」

おうおう、絶好調じゃないか。

やはり、動力源としてＭＬ（ムアコック・レヒテ）型抗重力機関を搭載させただけの事はあるな。やはり、滞空可能というのは大きな強みだな。あまり、空を飛んでいるとハチの巣にされかねないがな。

「絶好調だな　二人とも…どうだい人間をやめた気分は？」

ご存じのとおり、ＭＬ（ムアコック・レヒテ）型抗重力機関搭載型の機体は人間には操る事が出来ない。なんでも、ＭＬ（ムアコック・レヒテ）機関から発生する重力場の影響で人間

がその影響範囲に入ると内側からボン！！と爆発してしまうそうだ。
原作では、００ユニットの演算能力があった為　主人公が搭乗できたという設定だ。当然、私には００ユニットを作るだけの知識は無い。生憎と旧「あ号標的」にもその知識は無く、お手上げだった。
要するにだ…人間で乗れないなら人間を超える存在に乗ってもらえばいいのだと思い今に至ったのだ。筋肉、骨格、脳まですべてがＢＥＴＡ産の特殊は物を使っている。
「ＢＥＴＡ軍に入ってから既に人間である事を捨てた身だ。いつもと何ら変わらん」
流石は、エリート軍人ハムの人だ…言う事が違うわ。
「俺も問題ない。だが…一つだけ言わせてもらおう」
「なんだい？」
どうせくだらない事なのだろうが聞いてあげようじゃないか。
「これは、犬耳で有ってキツネ耳じゃぁぁぁぁぁぁぁぁあああい！！」
「どこが違うの？」
「断じて違ぁぁぁぁぁぁぁぁう」
ちなみに、刹那は本人経っての希望で耳を頭部に付けている。なんでも、愛玩用とお揃いにしたいそうだ。全く、変態の考える事は全く理解できん。

「じゃあ、ここの制圧戦でＴＯＰスコア出したら無料で治してあげるよ」

「その言葉忘れるなよ！！　今日の俺は、阿修羅すら凌駕する存在だ！！」

あ…それハムの人のセリフ。

「それは、私のセリフなんだが…」

物凄い勢いで刹那が制圧戦中の基地へ飛び込んでいった。しかも、ラザフォード場まで発生させて敵の歩兵をミンチにしていやがる…えげつねーな。

「では、私もそろそろ行かせてもらおう」

「しっかり働いて来い」

私は、ハムを見送った。

「そうそう、可能な限り研究者は殺すなよ…ってもういないか」

数日後。

レイアの私室にて。

『レイア様、合衆国政府より通信が入ってきております』

おろ？

珍しい所から通信が来ますね。

『繋げ』

『はい』

ディスプレイに合衆国政府の偉そうな人が映った。ソ連が落ちて次は我が身と思ったかな。いいだろう、話くらいは聞いてやろう。

弱小国にもチャンスをあげよう。

合衆国政府のお偉いさんと会話中のレイアです。

対話を始めて既に、三分が経過しようというのに相手が一方的に話してくる。次に標的はどこだとか、ＢＥＴＡ軍の捕虜を開放するから進軍をやめろとか、イミフな事を行ってくる。攻める国なんて私の気分次第だ。それに教える必要性を全く感じない。いつ攻め込まれるかわからないから楽しいんじゃないか。

後、我が軍の捕虜など存在しない。相手に捕まった時点で我が軍の貴重な人員枠に空きが出来る事になるのだからね。

『このままくだらない事を言っていると今後通信は遮断するぞ』

『ま、待ってくれ！！　本題はこれからだ。決して悪い話じゃない、だから最後まで聞いてくれ…後、この対話はオフレコでお願いしたい』

気になるな。圧倒的優位にある我々に対して良い話を持ってきてくれるなんてね。しかも、オフレコと来た。

『よかろう。これからの話はすべてオフレコだ（米国以外の各国に生放送しろ）』

『手間をとらせてすまない』

ニヤニヤ

合衆国のお偉いさんにはバレないように、脳内で命令を飛ばした。相手がこれからの話が世界中に聞かれるとなっては、尻込みしてしまうかもしれないからね。このくらいの配慮当たり前だ。それに…人類を殲滅しようとしている存在に交渉の余地などあるはずないだろう。しかも、相手がオフレコと言うくらいだから　きっと誰にも邪魔されない場所で通信をしているはずだから、世界中に放送されていることなど知るのに時間がかかるだろう。

あぁ…楽しみだ。

『我々、合衆国が保有する全てのG弾及びあらゆる技術をBETA軍に受け渡す準備がある。かわりに、合衆国には不干渉とお願いしたい』

…え！？

あまりの弱腰に予想外だぜ。てっきり、徹底抗戦の構えがあるとか、実はG弾より強力な爆弾があるぜとか　そんな話を期待していたんだが。

『正直、魅力がない提案ですね。このまま、進軍していればいずれは手に入れられる技術です。我々にとって、それが多少遅かろうと早かろうと問題ではない。それに、他国を見捨てて自分だけ先に安全地帯に逃げようと言う魂胆が気に食いませんね。後、そんなこと他国が見過ごすはずありませんよ』

『ならば、合衆国全てとは言わん…5万人。それだけの人間をBETA軍の保護下において欲しい。後は、他国に悟られないように進軍をしてもらって構わない』

一気に、人員を減らしてきたな。それにしても五万人ね。確か、オルタネイティブ５で逃げる合衆国の人員がそのくらいだった気がするな。

『なるほどなるほど、確かに五万人程度なら我々ＢＥＴＡ軍が持っているワームを何匹か使えば一気に運び出せる人数だ』

『受け入れても『だが、断る！！』』

相手の嬉しそうな顔が一気に絶望へと変わった。

きもちぃーーー。

『最初にも言ったように、我々ＢＥＴＡ軍の人員は１万人が上限だ。多少の例外はあるにせよ、五万人など到底受け入れられない。それに、既に情報が行っていると思うが…お前らのメンバーの一人が既にグレイ・ナインの資料を携えて亡命してきている。要するにだ…待っていれば、勝手に情報を携えて来てくれるんだよ。だから、こんな交渉など無意味！！』

『合衆国が保有する全てのＧ弾が、オリジナルハイブに向けて発射されることになるかもしれませんよ』

確かに、Ｇ弾は驚異だが…既にＧ弾に関する資料には目を通している。「あ号標的」を食っていなかったら何を書いているのかすら理解不能だった。だが、流石は宇宙生命体だ…あの資料を見ただけで既に対抗策が思いつくとはね。まだ、実践で試してないから不安は残るが恐らく問題なく対応できるだろう。

『くっくっく、楽しみしていますよ。では、ご健闘をお祈りしてま

す』

『待ってくれ！！まだ話が…』

通信途中であったが、切断した。

さて…次の準備取り掛かろうか。

『イヴ、今の会話は？』

『合衆国をのぞく世界各国に放映いたしました』

『よろしい。では、ＢＥＴＡの増産に取り掛れ』

イヴに命令を出した。これで、数日後には数万のＢＥＴＡが誕生するだろう。

「今の放送を見てきたのだが、随分と楽しそうだな。それで、今更ＢＥＴＡを量産して何をするんだ？」

「グラハムか。なーに、合衆国相手に喧嘩を売れない弱小国にＢＥＴＡの貸出さ。きっと、たのしくなるぞ」

自分たちを見捨てて逃げようとした大国に喧嘩をするチャンスをあげようなんて、私はなんて慈悲深いのだろう。

ＢＥＴＡレンタル始めました。

合衆国を除く各国にＢＥＴＡの貸出を始めたレイアです。

しかし、ここにきて思わぬ問題が発生した。貸出申請が予想以上に少ない。いや、少ないというか…聞いた事ないような小国からわずかに申請があったくらいだ。

なぜだか理解できない。

貸出料金が問題なのだろうか…いや、そんな事はない。すごくリーズナブルなお値段だから、決してどの国も借りられないハズはない。

「兵士級と闘士級が人間二人。戦車級と光線級が人間三人。突撃級と要撃級と重光線級が人間五人。要塞級が人間５０人と大変お買い得はずだ。確かに、ＢＥＴＡ軍相手には使用制限をかけてはいるが、無期限レンタルと大盤振る舞いなのだがな。どうおもう、刹那、グラハム」

「ＢＥＴＡに耳が無いせいだと、俺は思う」

…君に聞いたのが間違いだよ　刹那。

「確かに、ここまでレンタル申請が来ないのは不可解だな。各国の意見を募ってみてはどうだ？」

よい提案だグラハム。

『イヴ、至急各国にこの件を調査してこい』

『かしこまりました』

翌日。

『レイア様、先日の件調査結果が纏まりました』

『ずいぶん早いな。報告しろ』

さてさて、どんな回答がくるかな。やはり、貸し出すならばＢＥＴＡ軍の戦術機などを希望しているのかな。それとも、私自身をレンタル希望かな（笑）

『はい。まず、全体の８割が貸し出されるＢＥＴＡに対しての不満です。次に多いのが人命をなんだと思っているといった意見です。後は、聞くまでもないたわいもない物です』

やはり、レンタル可能なＢＥＴＡが問題か…。しかたない、少しだけ制限を解除してやろうかな。

『その８割の連中は、なんのＢＥＴＡを希望しているのだ？　大体想像は付くが、一応聞いておこう』

『８割の意見の中の９割が愛玩用ＢＥＴＡの貸出を希望しております。要するに、私たちのようなＢＥＴＡを貸し出して欲しいと…もし、貸してもらえるならば一体当たり５００人の命を差し出すと言っている者達もおります』

あ、頭いてーーー。

なにそれ、もしかして負け戦だから人生最後くらいエロい事して終焉を迎えたいといった結論に至ったのか！？それに、こんな決断ができる権力者なら女なんて入れ食いだろう。それとも、人間の女には飽きたとかいうリア充なのか！？

だけど、そんなしょぼい人数では話にならんぞ。ＢＥＴＡ軍内部だって、愛玩用ＢＥＴＡは高額商品だ。軍人を１万５千人ＫＩＬＬしないと手に入らないようなものだ。それをたかが５００人と交換など有りない。

『その八割のアホどもに、愛玩用ＢＥＴＡが欲しければＢＥＴＡ軍が提供しているポイント表にのとった人間を提供しろと伝えておけ』

『かしこまりました』

数日後。

『レイア様、今日までに愛玩等ＢＥＴＡの申請数が５０を超えました。ちなみに、アメリカから国籍を変えてまで愛玩用ＢＥＴＡを手に入れようと画策しているものも居るみたいです』

人類なんて、さっさと滅びてしまえ！！

人がせっかく量産したＢＥＴＡではなく、愛玩用ＢＥＴＡをどういうことだ。お前ら、合衆国が憎くないのかよ！！　女の子とにゃんにゃんしている暇があったら、さっさと反逆しろ！！　むしろ、ち

ゃんと仕事しろ！！

くっそ！！

しかし、宣伝してしまった手前　約束は守るレイアです。嘘をつくのは良くないからね。

在庫になってしまったＢＥＴＡたちには申し訳ないけど、各地のハイブへ送って防衛の仕事に付いてもらおう。

人間の欲望を甘く見ていたレイアであった。

ＢＥＴＡレンタル始めました。（後書き）

次回は、合衆国の愛玩用ＢＥＴＡ申請者のお話でもかこうかな@@

わらしべ長者。（前書き）

愛玩用ＢＥＴＡを買った人のお話です。

わらしべ長者。

合衆国の某大農家にて。

「くっくっく、まさか難民がこんな時に役に立つとは思ってもみなかったな」

我が一族は、長年にわたり合衆国の農産業を支えてきた。ＢＥＴＡが地球に現れるまでは、地位が低く見られる傾向があった。しかし、今では各国の首脳陣ですら俺に頭を下げるくらいだ。全く、良い時代になったものだ。

最近では、慈善事業として難民に対して食料の配給なども引き受けている。正直、なんの役にもならん連中に飯をくれてやるなど狂気の沙汰だったが…流石に、合衆国からの命令には逆らえん。あいつら、戦術機まで持ち出してきて首を縦に振らせてきたからな。いくら、票を確保する為とはいえ　やりすぎだろう。

おかげで、俺が何をやっても黙認されているがな。人間食わなきゃ生きられんから、食料を餌に難民の女を食いまくっている。世界各国から難民が集まる合衆国のおかげで、俺が世界中の女を食べ放題だ。

しかし、流石に人間の女に飽きてきたと思った矢先に先日の事件だ。ＢＥＴＡ軍がＢＥＴＡの貸出なんて冗談みたいなことをやり始めやがった。しかも、アホな合衆国の政治家の大暴露の後にだ。おかげで、政府は相当焦ったらしい。万が一、受け入れる国家があるならばＧ弾使用も考慮されたと聞いた。実際、いくつかの国がＢＥＴＡをレンタルしたがＧ弾は発射されなかった。恐らく、採算がとれな

いという理由だろうな。名も知らないような小国に貴重なＧ弾を使う訳にはいかないだろうからな。

そんな話は置いておいてだ。

要するに俺は、合衆国にいる難民のほとんどを自由にできる権利があるんだ。そして、人間の女は抱き飽きた。ならば、導き出される答えは一つ！！　ＢＥＴＡ軍が扱っている商品に目が行くわけだ。今までも何度か今の地位をお持したままＢＥＴＡ軍に所属して、二足の草鞋を履けないかと必死に考えたが無理だった。合衆国は、なんとか騙せてもＢＥＴＡ相手にはどうしてもアイディアが浮かばなかった。

だが、今回の一件でその悩みも解消されたのだ。不要なモノを処理するだけで、私が欲しいモノが手に入るのだから、嬉しい限りだ。数十万いる難民の内たかが、数万消えようと問題では無い。それに、合衆国に足がつかない用意に色々と根回しも完璧だ。

「アルフォンス様、件の商品が届きました」

もう来たのか！！

難民キャンプの位置をＢＥＴＡに提供してから、僅か二日で届けてくるとはな。執事の報告では、難民キャンプが突如巨大ワームに丸ごと飲み込まれたという話だが、私の知ったことでは無い。

「セバスチャン！！　分かっていると思うが、しばらくの間誰もこの屋敷に通すなよ。例え、政府高官でもだ」

「もちろんでございます」

さぁ、楽しい時間を始まりだ。

レイア私室にて。

希望者全てに愛玩用ＢＥＴＡを配り終えたレイアです。

「全く、世の中ゲスな人間が居るものだな。まさか、難民を餌にしてくるとはな」

・・・

・・

・

私がぼやいていると、イヴがなぜが鏡を私に向けてきた。随分と人間味がでてきたじゃないか。

「どういう意味だ？」

「いえ、特には…」

「まぁ、よい。それで手に入れた人間共に対して処置は行なっているのだうな？」

「もちろんです。既に、連れてきた人間の８割に処置を施しており

ます。しかし、拒絶反応が強い為　半数以上者が死にました」

やはり、脳だけをＢＥＴＡの体に移植するのは大変そうだな。せっかく自我をもったままＢＥＴＡにしてあげようというアイディアが…

「まぁ、ある程度生き残ればよい…後、お前は用済みだ」

ドゴォーーーーン

荷電粒子砲できれいさっぱり消滅させた。

私に対して不敬は、死を意味する。周りに人間が多いから少々正確に変化があったかもしれないが…出来損ないは破棄だ。兵器に感情などいらん。

喚んだのは、最凶の手札。

横浜基地にて。

あのバカが救ってくれた世界が、こうも簡単に滅んでいくとはね。

正直、やってられないわ。

世界中の戦力を総動員して倒した『あ号標的』が、僅か一ヶ月程度で新たな『あ号標的』が現れた。しかも、以前とは異なり完全な人型として復活してきた。しかも、その容姿が凄乃皇の自爆に巻き込まれた人物だった。

「やっぱり、あの化け物を倒すにはアレに賭けるしかないわね」

荷電粒子砲を防ぐだけでなく、G弾の直撃を食らっても生き残った化け物なんて人類の手に余る。おまけに、今ではＢＥＴＡの力まで手に入れて完全にお手上げだわ。

もっとも、その化け物が人類殲滅をゲームのように楽しんでいるおかげで生き残れているも事実だ。まさに、不幸中の幸いというやつだわ。

「霞、準備はできてるわね」

コクン

チャンスは、一回だけ。決して失敗する事は許されない。例え、成功したとしてもさらに状況が悪化するかもしれない。だけど、その

時は諦めましょう。

装置の電源をいれた。

あの化け物を倒しうるナニかを呼び寄せるための作戦だ。あの馬鹿を元いた世界に送り届ける事が出来たのだから、別の世界にいるあの化け物を倒しうる何かを引き寄せる事も可能であるはず。それが、例え砂漠でコンタクトを見つけ出す位の可能性であろうとも、必ず成功させる！！

神様なんて信じてないけど、今では神頼みしてあげるわ。

「なんでもいいわ！！　あのレイアという化け者を倒せる誰でもいい！！　この世界を救って頂戴」

「お願い、助けて」

・・・
・・
・

機械音が響く。

「やっぱり、無理よね……。戻るわよ　霞」

時間の無駄をしたわ。予想通りとはいえ、堪えるわね。

まずは、生き残ったアホな国家共を一致団結させないといけないわね。ズタボロにされた国家間の信頼を取り戻すのは容易な事ではないが、少しでも人類を長生きさせる為には、やらねばならないわね。

「…どうしたの霞。さっさと行くわよ」

「誰か来る」

誰かって…こんな場所に…まさか！！

その瞬間、部屋全体が眩しい光に包まれた。

光が収まると、まるで絵本から飛び出してきたかのような麗しい男女二人組と銀髪の美少女がいた。

「蛮族よ、先ほどレ「レイアさんの名前が聞こえたんですが、何処にいますか？」」

「お母様、話がややこしくなるから黙ってなさい」

・・・

・・

・

理解が追いつかない。

なんだか、よくわからない連中だが恐らくあのレイアとかいう人物の関係者なのだろう。予想以上に大物が釣れた事に危うく、我を忘れそうになった。

これで世界は、救われるわ！！

レイアの関係者にまともな人物が、いるはずも無く。例に漏れず、ここにいる三人もレイアと同類と考えなかったのは、失策であったと知る事になる。

喚んだのは、最凶の手札。（後書き）

そろそろ、レイアが帰還する準備にはいました。

憎しみの連鎖。（前書き）

とある難民兵士のお話です。

憎しみの連鎖。

香月先生の作戦が行われている同時刻、合衆国最前線にて。

「くそったれが！！　ＢＥＴＡは、基地制圧戦に参戦しないんじゃなかったのかよ」

「黙って、防衛に当たれ。あいつら、ただのＢＥＴＡじゃねーぞ」

そんなの見たら分かる！！

ＢＥＴＡがオレら人間の武器を装備して攻めて来ているのだからな。しかも、動きもやたら人間くさい上に戦術機の構造上の弱点を正確に狙ってきやがる。

数こそ少ないが、そのやり口がえげつない。オレら人間の兵士を生きたまま盾にして距離を詰めてきやがる。おまけに、なかには人語を話してこちらの無線に割り込んでくる奴らもいる。

『ＣＰより各位へ、たった今ＢＥＴＡ軍より回答があった』

オレらを殺そうとしている連中に問い合わせをしてマトモな回答が今だに返ってきているの事に俺は非常に疑問に思う。

『「我々、ＢＥＴＡ軍は合衆国に対して進軍を行なっていない。合衆国にいるＢＥＴＡは、自ら御礼参りに行きたいと自主的に行動している連中だ。よって、我々は何も関与しない。煮るなり焼くなり好きにしろ」だそうです』

自主的にだと！！

本来ＢＥＴＡは『あ号標的』の支配下に置かれており、命令なくして動くことなどありえない。しかし、今回暴れているＢＥＴＡどもは特別製だ。愛玩用ＢＥＴＡの代金として受け取った者の脳をＢＥＴＡに移植して完成した新型だ。要するに、人間であった頃の自我を持つＢＥＴＡの完成である。だが、この事を知る人類はまだいない。

『ザーーーザ…き、聞こえるか。合衆国の糞兵士ども』

「おぃ！！　ＢＥＴＡの連中が通信網に割り込んできた。さっさと、見つけて始末しろ！！」

俺の家族は、先日謎の難民キャンプ消失事件で連絡がつかない。恐らくは、ＢＥＴＡに連れ去られたともっぱらの噂だ。騒ぐ連中には、愛玩用ＢＥＴＡ欲しさに難民を売ったと言っている奴もいるが、俺は違うと信じている。難民の俺を受け入れてくれて、戦術機の兵士にまで育ててくれた合衆国がそんなことをするはずがない。

だから、俺は合衆国の為にもここを死守する！！

それが、家族を連れ去ったＢＥＴＡへの復讐でもあり、合衆国への恩返しでもあるからだ！！

『我々は、この国に売られた者たちの末路だ。そして、ＢＥＴＡの手によって脳をＢＥＴＡに移植されこの場にいる。なぜ、我々がこのような目にあわなければならない！！　我々は、レイア様のご行為により　自主的な行動を許されている』

な、なんだと！！

『前置きは、どうでもいい。我々が言いたいこと一つ！！　貴様ら皆殺しだぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！』

通信がきれた。

合衆国に売られた？　自我をもっている？

そんな事を言われても、どうしようもない。話し合いで分かり合え…るはずがないな。ＢＥＴＡの親玉を様付していた時点で洗脳されているのは明白。しかも、本人たちは自覚なしだ。

俺に元同胞を殺せっていうのか…家族がいるかもしれないのに。

『重光線級に狙われている！！　至急回避行動を取れ』

オペレータから緊急通信がはいった。

俺が放心している間に狙われていたようだ。とりあえず、回避行動を…

「さようなら、あなた」

え！！

私に狙いを定めているＢＥＴＡから妻の声が聞こえた！！

「まってく・・・」

ドカーーーーン

重光線級から放たれたレーザーによって私がいるコックピットが消滅した。

自分の首を絞めて何が楽しいんだ…人類。

今日もご機嫌のレイアです。

さーて、今日はどこの国を攻めようかな。日本と合衆国は最後に取っておくつもりだ。

世界地図に向かってダーツを投げた。

その地図は、既に全体の８割が真っ赤に塗られている。その塗られた箇所がＢＥＴＡ軍の制圧した国家になっている。そして、本日の獲物は…また聞いたことがない小国だ。

「アダム…この国の詳細なデータを」

「ただいま、お持ちいたします」

イブが消滅したので、再生産が完了するまでアダムを秘書にしている。決して、アーベのような趣味で男を近くに遣えさせているわけではない。

アーベ…久しぶりに名前を口に出したのだが、いい加減誰か迎えに来てくれないかな。

それに、何だかんだでテファや娘たちがいないと寂しいです。

「レイア様、資料を持ってまいりました。それと横浜から通信が来ております。なんでも至急レイア様にお繋ぎして欲しいとの事です」

横浜と言えば…あの魔女が居る国か。

原作では、随分と頑張っていたが今では食糧難がピークに達しそうな極貧国だ。イナゴーの働きと世界中のあらゆる分野での生産力低下に伴う影響をモロにうけているからな。

さて、どんなネタで私を楽しませてくれるかな。

「構わん繋げ」

今日は、ホットチャイか…旨いな。こういう、贅沢が出来ない人たちが可哀想だ。そうだ、ＢＥＴＡ軍の直営所を各国に作って、食料をポイントで交換できるようにしてあげようかな。これで食糧難に困る人々が減ること間違いなし！！　きっと、救われた人々から感謝されること間違いないね。

『レイアさん、見つけました～』

『ブーーーーゴッホゴホゴホ』

予想の斜め上を行く展開で、飲んでいた紅茶が気管に入った。まさか、このような手で私を苦しめてくるとは…さすがは、横浜の魔女だ。

というか、なんでテファがここに！！

落ち着けレイア。もしかしたら、これは相手の罠かもしれない。こういう時こそ、落ち着くんだ。

『どうせ、敵の罠じゃないか　とか　静まれ俺の右腕とか　くだら

ない事を考えているに違い無いな』

『ビ、ビダーシャル！！　なんで、ここにいるんだよ。ついでに勝手に人の思考を読むんじゃないよ。後、俺の右腕が！！　とか全然考えてないから』

『ちゃんと、乳酸菌とってる？お父様』

・・・
・・
・

テファとビダーシャルと水銀燈…一体、人類が何をしたいか理解に悩むよ。私だけで飽き足らず、最凶の連中まで呼び寄せて…本当に何を考えているんだ。

『久しぶりだね。ちゃんと、ご飯は食べているかいテファ。紅茶（醤油）は、一日一リットルまでだよ…ちゃんと守っているかい水銀燈。いい加減、いい年なんだからいい人見つかったかいビダーシャル』

『はやく、レイアさんのご飯が食べたいです』

『一リットル？なんの話かしら…全く記憶にないわね』

『大丈夫だ、問題ない』

どうやら、みんな思ったより元気そうだな。もっと、私が居なかったことに悲しんで欲しかったよ。実際、一度はここの世界で死にかけたのだからさ。少しくらい、心配だったよとか言ってくれてもい

いんじゃないかな。

三人の映像がいきなり切り替わった。

『そういう事よ。あの三人がどういった力を持っているかは知らないけど、今三人が居る部屋には、合衆国が所有しているG弾の半数が設置されているわ。これがどういう事かわかるわよね？　私たち人類は、あなたと交渉の場を設けることを望むわ』

交渉の場か…随分とハードを下げてきたな。人類を見逃せではなく、妥協点を探す方向に倒れたか。

まぁ、全く信じていないけどね。

だって、G弾が出てくるってことは利権が大好きな合衆国や日本も一枚も二枚も絡んでいるってことでしょう。

水銀燈だけなら、交渉の場に出たかもしれないが…ビダーシャルやテファがいる以上、G弾で死ぬことはありえないだろう。だって、私よりチートだからね。

『だが、断る！！』

『あ、あんた自分の妻と娘、親友を見捨てるつもり！！　悪いけど、こっちは本気でG弾を使うつもりよ。G弾の威力は、あんたが身をもって経験しているはずだから一番分かっているでしょう！！　死ぬわよ　みんな』

はっはっはっはっはっは

『確かに、私のような中堅では生存率はかなり低いだろう。だが、君たちが接待している連中の内二人は、私より確実強いのだよ。だから、構わんよ』

あの三人の事だ。私がこの星に居る事さえわかれば位置を掴む事もできるだろう。恐らく、今はテファが飯に夢中の為、こちらに来ていないだけだろうな。人類側は、なけなしの天然物を大放出中ときている…まったくご苦労なことだ。

では、私は三人の受け入れ準備と後片付けに入ろう。

『それでは、人類の皆さん　楽しい余生を…』

『まちな……』

通信を遮断した。

さて、立つ鳥　後を濁さずとあるし…残った連中も掃除しちゃいますかな。

自分の首を絞めて何が楽しいんだ…人類。（後書き）

もうすぐ最終話かな…。

この調子で突っ走ればいいけど@@

持ってくれ私の体力ｗ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7477s/

使徒のBETA

2011年11月20日00時18分発行